

C2
1113
S3-02

現行
改訂

山梨縣令達全書

續編壹

現行 山梨縣令達全書續編一

凡例

一本書彙ニ明治初年以還同廿四年十二月ニ至ル現行令達ヲ類聚シテ官民ノ便

用ニ供セシガ今復其例ニ倣ヒ明治廿五年一月ヨリ同年六月ニ至ルノ間新タ

ニ發布セラレタル令達及改正刪除等ノ條件其他前編ニ遺脱セルモノヲモ併

ニテ茲ニ拾録シ以テ續編第一卷トセリ尙ホ今後半年間毎ニ第二第三ト卷ヲ

逐テ編輯シ漸次之ヲ發刊セントス

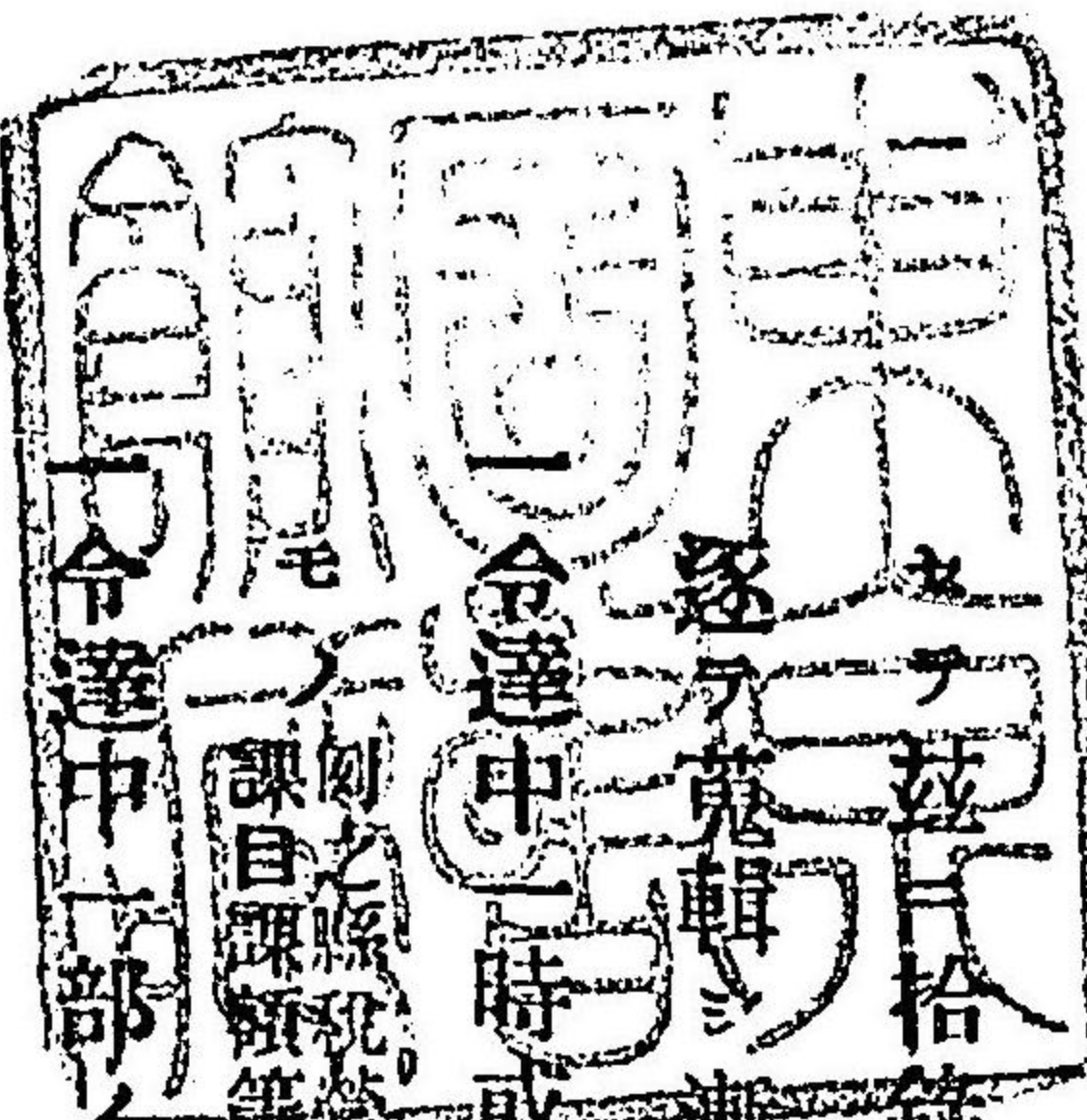
令達中一時或ハ一年限ノ効力ニ止マルモノアリト雖モ其最モ必要ト認ムル

課目課額等ノ類ナリハ漏サス之ヲ輯録ス

令達中一部ノ改正追加若クハ一二條項ノ刪除等アリ此等ハ皆其上下或ハ本

文中ニ何年何月令達第何號ヲ以テ其事由ヲ註記シ且其刪除ニ係ル舊原文ノ彼此參

看ニ必要アルモノハ間々之ヲ掲載ス



一 第五類教育ノ部ハ本年四月ヨリ本縣下ニ小學校令ヲ實施セラレタルヲ以テ從テ其順序方法及諸規則等發布ノ數實ニ尠少ナラザレバ別ニ一部ノ冊子トシ本編ノ附録トシテ刊行セリ故ニ本編中ニハ省キテ之ヲ載セズ

一 類目中「記載ノ事項無シ」トセシハ編輯ノ年間即チ明治廿五年一月ニ於テ令達ノヨリ六月ニ至ルノ間ニ發表及改刪等一モ其記スヘキ事ノナカリシモノナリ

明治廿五年七月

編者識

改訂 山梨縣令達全書續編一

目次

- 第一類 公報 公布式
- 第二類 褒賞及恤救
(以上記載ノ事項無シ)
- 第三類 議會及議員
(一) 縣會議員並縣名譽職參事會員及委員旅費等支給規則
(二) 縣會ノ議決スヘキ事件中縣參事會ヘ委任ノ件
(三) 委員設置規程
(四) 縣會議事堂使用規則
- 第四類 市町村制
(一) 東八代外二郡内分合村
(二) 従前ノ町村貯蓄金ヲ市村基本財産ト爲スノ件
- 第五類 教育
(附録トシテ別ニ發刊アリ故ニ茲ニ省ク)

一 全三

第六類 衛生

目二

- (一) 醫師藥劑師試驗延期出願ニハ証明書ヲ添フルノ件
(參看) 醫術開業試驗規則并藥劑師試驗規則抄錄 全一
- (二) 醫師藥劑師免狀手数料等送納方
(參看) 醫師藥劑師免狀手数料等ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘキノ件 全二
- (三) 醫師藥劑師免狀及賣藥營業免許鑑札領收証徵納方 全全
- (四) 虎列刺病ノ豫防ハ初發局部ニ於テ撲滅スルヲ必要トスルノ件 全全

第七類 兵 事

- (一) 陸軍召集旅費支給所設定
(參看) 陸軍召集旅費支出規定抄錄 全一

第八類 戶 籍

(記載ノ事項無シ)

第九類 社 寺

- (一) 官有社寺地内ニ測量標設置ノ際協議方 全一
- (二) 府縣社以下神官當任者ニハ認可ヲ與フルノ件 全一
- (三) 官國幣社神職試驗規則 二全

第十類 回 漕 運 輸

(記載ノ事項無シ)

- (四) 府縣社以下神官撰舉認可願出方 全四
- (五) 府縣社以下神官撰舉認可願出順序

第十一類 土 地 及 土 功

- (一) 御料地草木拂下規則中更正 二
- (二) 公園内建物ヲ公園附屬ト爲スノ件 全三
- (三) 公園貸渡規則 全四
- (四) 公園内借用人心得 全七
- (五) 道路堤防及並木敷使用規則 全九
- (六) 堤防所屬樹竹林委託規則 全一
- (七) 堤防所屬樹竹林委託規則取締順序 全一
- (八) 釜無外四ヶ川沿岸地實測ノ件 全一
- (九) 町村地圖調製方 全一
- (十) 町村地圖調製期限 全一

第十二類 出 納

- (一) 各種金員ヲ地方税ニ引繼キ管理スルノ件 四一
- (二) 管内共有儲蓄金管理規則

目三

(三)	需用品管理規則	六
(四)	需用品取扱順序	七
(五)	衛生恩賜金及病院資本金管理規則	九
(六)	衛生恩賜金其他金員入出	〇
(七)	監獄工業基本金管理規程	一
(八)	縣稅及備荒備蓄金會計規則	一
(九)	縣稅及備荒備蓄金會計規則ニ屬スル帳簿式及整理順序	三
(十)	縣稅徵稅臺帳徵稅元帳式及整理順序	七

第十三類 警 察

(一) 紙幣類似ノ印刷物製造販賣等禁止

第十四類 農 工 商

- (一) 鑛業條例實施ニ付更ニ冰晶借區試掘ノ願出方
- (二) 砂鑛採取行業明細表調製差出方
- (三) 探掘特許者ニアラサル鑛物製鍊業ニ關スル件

第十五類 租 稅

- (一) 地租條例及全取扱方心得中ニ追加
- (二) 戶主ノ所得ト家族ノ所得ト區分届出方

目四

六 七 九 一〇 一 一 三 全 一 全 全 一 一 全

(參看所得稅法抄錄)

- (三) 縣稅賦課規則中改正
- (四) 縣稅賦課規則取扱順序
- (五) 縣稅徵收細則中刪除
- (六) 縣稅徵稅臺帳徵稅元帳式及整理順序
(參看) 縣稅徵稅臺帳徵稅元帳等實施ニ關スル注意方
- (七) 廿五年度縣稅地租割賦課率
- (八) 廿五年度縣稅營業稅雜種稅課目課額
- (九) 廿五年度縣稅戶數割市村等級及賦課率
- (十) 分合村ニ係ル廿五年度縣稅戶數割賦課率
- (十一) 縣稅滯納處分報告表調製差出方
(參看) 國稅滯納處分報告表
- (十二) 屬托ニ係ル滯納市町村稅金爲替料等收出方

第十六類 本 縣 報 告 例

- (一) 年報中地所ノ賣買及臺帳金高外三表削除
- (二) 月報半年報中正誤
- (三) 年報中電信柱個數其他取調表改正
- (四) 馬匹車輛並馬車馱馬屬員數表
(參看) 徵發事務取扱手續抄錄
- (五) 年報中市村土木工費總計表報告期日改正

目五

全 一 二 全 一 四 全 三 五 全 四 七 全 五 四 全 五 七 一 全 全 三 四

(六) 年報中徵集人員ノ身丈外ニ表改正
(七) 年報中綿糸産額表改正

第十七類 願 伺 届

(記載ノ事項無シ)

第十八類 雜

- (一) 御料局静岡支廳出張所移轉改稱
- (二) 御料地産物公賣規則廢止
- (三) 警視廳巡查志願ノ者身元証明方
- (四) 警視廳看守志願ノ者身元証明方
- (五) 沖繩縣巡查奉職ノ者歸省等ニ際シ証明方
- (六) 郵便送達ノ訴訟書類領置方
(參看) 民事訴訟法抄錄
- (七) 北米合衆國渡航者注意方

現行 山梨縣令達全書續編

● 第一類 公報公布式

● 第二類 褒賞及恤救

(以上記載スベキ事項ナシ)

● 第三類 議會及議員

(一) 縣會議員并縣名譽職參事會員及委員旅費等支給規則

○ 告示第廿四號

明治廿五年
三月廿一日

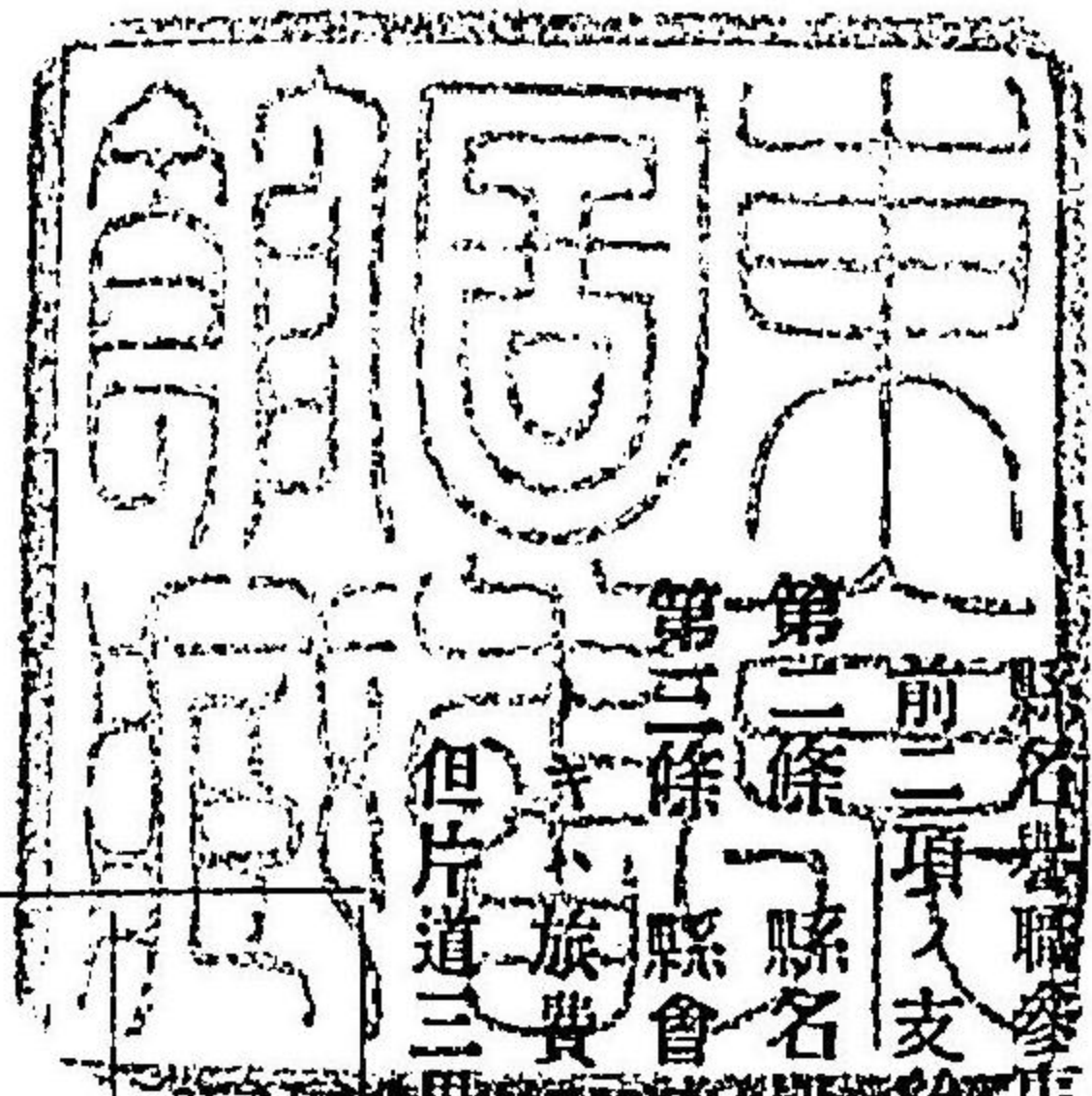
縣會議員旅費滞在手當并縣名譽職參事會員及委員旅費滞在手當支給規則縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通り
定メタリ

第一條 縣會議員旅費滞在手當并縣名譽職參事會員及委員旅費滞在手當支給規則
縣會議員議場ニ往復スルトキハ旅費ヲ給シ滞在中ハ滞在手當ヲ給ス

第二條 縣名譽職參事會員及委員職務ヲ以テ出張巡回スルトキハ前條ノ旅費ヲ支給ス
前二項ノ支給額ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

第三條 縣會議員縣名譽職參事會員及委員ニシテ其住居地ヨリ議場又ハ會場ヘノ距離一里未滿ナル
者ハ旅費ヲ給セス

但片道三里未滿ハ日當ヲ給セス十里以上ハ二日分ノ日當ヲ給ス



旅費滞在手當定額表

旅		費		滞在手當
車馬賃一里毎ニ	瀛車賃一哩毎ニ	瀛船賃一里毎ニ	日當一日毎ニ	一日毎ニ
五 錢	四 錢	四 錢	五 拾 錢	五 拾 錢

第三類 議會及議員

(二) 縣會ノ議決スヘキ事件中縣參事會ヘ委任ノ件

○告示第廿五號

明治廿五年
三月廿一日

縣會ノ議決スヘキ事件中縣參事會ヘ委任ノ件縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通定メタリ

縣會ノ議決スヘキ事件中縣參事會ヘ委任ノ件

縣會ノ議決スヘキ事件中左ノ事項ヲ縣參事會ヘ委任ス

- 一 金額百圓以下若シハ見積價格百圓以下ノ事件ニ付權利ノ棄却ヲナス事
- 二 縣ノ事業ニ必要ナル人夫物件ノ寄付ニ關スル事
- 三 縣稅徵收方法ニ關シ其整理順序及帳簿式ヲ定ムル事

(三) 委員設置規程

○告示第二十九號

明治廿五年
三月廿三日

委員設置規程縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通定メタリ

委員設置規程

- 第一條 營業稅雜種稅及戶數割賦課ノ標準ヲ調査セシムル爲メ臨時委員拾名ヲ置ク
- 第二條 治水費道路橋梁費支辨ノ區域若シハ土砂杆止ニ關係ノ區域ヲ定メ其他工事上重要ノ事項ヲ調査セシムル爲メ常設委員五名ヲ置ク
- 第三條 縣立病院ノ組織及其經濟縣立中學校ノ經濟并縣有財產ノ管理上重要ナル事項ニ付知事ノ諮問ニ應シ若シハ意見ヲ提供セシムル爲メ常設委員三名ヲ置ク
- 第四條 委員ハ縣會議員ノ互撰ヲ以テ之ヲ定ム
- 第五條 臨時委員ノ任期ハ調査ノ事件完結ト共ニ終了ス常設委員ノ任期ハ一年トシ毎年通常縣會ニ於テ改選ス
- 第六條 臨時委員調査ノ事件完結スルトキハ其經過及結果ヲ知事ニ報告スヘシ

(四) 縣會議事堂使用規則

○縣令第廿三號

明治廿五年
三月廿三日

縣會議事堂使用規則縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通相定ム

第一條 縣會議事堂ハ左ニ規定スル件ニシテ主用ノ目的ヲ妨ケス及現形ヲ増損セサル一時ノ使用ニ限リ其全部若シハ一部ノ使用ヲ許可ス

- 一 直接ノ公用
 - 二 學事勸業衛生慈善等ニ關スル集會
- 議事堂内ニ備フル器具ニシテ前項ノ使用ニ附隨スル使用ハ併テ之ヲ許可ス
- 第二條 許可期限内ト雖トモ主用ノ目的ニ妨ケアリト認ムルキハ其全部若シハ一部ノ使用ヲ停止ス
- 第三條 使用料ハ徵收セサルヲ常例トス例ニ依リ難キトキハ縣參事會ノ議決ヲ經テ其額ヲ定ムヘシ
- 第四條 使用人使用ノ建物若シハ器具ヲ毀損亡シタルトキハ其損失ヲ賠償セシムヘシ

● 第四類 市町村制

(一) 東八代外二郡内分合村

○告示第三十四號

明治廿五年
三月廿一日

町村制第四條第一項ノ順序ヲ經東八代郡上黒駒村同郡藤之木村ヲ合併シテ黒駒村南巨摩郡増穂村ノ内小室、高下ノ二組ヲ分離シテ穂積村南都留郡西湖村ノ内長濱組ヲ分離シテ長濱村トス

(二) 従前ノ町村貯蓄金ヲ市村基本財産ト爲スノ件

○訓令第六十二號

明治二十二年
十二月十四日

郡 役 所
市 役 所
村 役 場

今般縣令第八十八號ヲ以テ町村貯蓄金規則廢止候ニ就テハ該貯蓄金ハ縣廳ヨリ還附ヲ受ケタル金額及未ダ縣廳ニ送納セザル金額トモ凡テ之ヲ其市村ノ基本財産トシテ管理スベキモノトス

(明治廿五年二月廿五日)

訓令第四號ヲ以テ削除

市村長ハ市制第百廿三條町村制第百廿七條ニヨリ前項基本財産ニ編入ノ手續ヲ了シタルトキハ其管理ノ方法ヲ具シ縣廳ニ報告スヘシ

●第五類 教 育

(附録トシテ別ニ頒布アリ故ニ茲ニ之ヲ省ク)

●第六類 衛 生

(一) 醫師藥劑師試験延期出願ニハ証明書ヲ添フルノ件

○告示第三十八號

明治廿五年
四月六日

醫術開業試験規則第十五條但書及藥劑師試験規則第八條但書ニ據リ止ムヲ得サル事故ノ爲メ次回へ延期ヲ出願スルトキハ其事故ヲ證明スヘキ書類ヲ添付スヘシ

(參 看)

醫術開業試験規則(明治十六年十月)抄錄

第十五條 試験ヲ開居ケサル者及受験前死亡シタル者ノ外總テ納付シタル手数料ハ返付セス

但止ムヲ得サル事故アリテ受験前日迄ニ次回へ延期ヲ願出テ其許可ヲ與ヘタルトキハ次回ニ於テハ要ニ手数料ヲ徴收セス

藥劑師試験規則(明治廿二年三月)抄錄

第八條 試験ヲ開居ケサル者及受験前死亡シタル者ノ外總テ第六條ノ手数料ヲ返付セス

但止ムヲ得サル事故アリテ受験前日迄次回へ延期ヲ願出テ其許可ヲ與ヘタルトキハ次回ニ於テハ要ニ手数料ヲ徴收セス

(二) 醫師藥劑師免狀手数料等送納方

○告示第三十九號

明治廿五年
四月六日

明治二十五年(三月)内務省令第一號ニ據リ醫師并藥劑師免狀手数料及書替手数料トシテ納ムヘキ登記印紙ハ免狀下付ノ節其受書へ貼付スヘシ

(參 看) 醫師藥劑師免狀手数料等ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘキノ件

内務省令第一號

明治廿五年
三月十一日

明治廿五年四月一日ヨリ左ノ種目ノ手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第六類 衛 生

醫術開業免狀手数料
藥劑師免狀手数料

醫術開業免狀書換手数料
藥劑師免狀書換手数料

(以下省略)

(三) 賣藥營業免許鑑札料送納方

○告示第四十二號 明治廿五年
四月十一日

賣藥營業免許鑑札料トシテ納ムヘキ登記印紙ハ鑑札下付ノ節其領收證ヘ貼付スヘシ

○訓令第六十六號 明治廿五年
四月十一日

(四) 醫術藥劑師免狀及賣藥營業免許鑑札領收証繳納方

郡 役 所
市 役 所

醫術藥劑師免狀及賣藥營業免許鑑札當廳ヨリ送付シタルトキハ之ヲ本人ヘ交付シ本年告示第三十九號及第四十二號ニ據リタル領收證ヲ繳シ當廳ヘ送達スヘシ

○訓令第貳拾參號 明治廿五年
六月十三日

郡 役 所
市 役 所
村 役 場

虎列刺病ノ豫防ハ豫防心得書ニモ記載ノ如ク初發局部ニ於テ之ヲ撲滅スルヲ最モ必要ノコト、ス然ルニ近來虎列刺病ノ病原タル虎列刺菌ニ非常ノ重キテ置キ該菌ヲ見サル中ハ虎列刺病タルノ感覺ニ薄シ隨テ豫防法ノ施行ニ於テモ亦緩慢ニ流ル、ノ傾アリ已ニ客年二三ノ地方ニ於テ之カ爲メ初發ノ豫防ヲ怠マリ遂ニ傳播ヲ來タセシ實例モ有之趣ニテ甚ク憂フヘキコト、ス蓋シ虎列刺菌ノ檢査タル

瞬間ニ爲シ得ヘキモノニアジス必ス多少ノ時間ヲ要スヘシ當ニ時間ヲ要スルノミナシス劇烈眞性ノ患者ニ於テ時ニ或ハ虎列刺菌ノ存在ヲ認メ得サルコトアリ此ヲ以テ該菌ノ檢出ヲ待テ而シテ豫防ニ從ハントセハ終ニ病毒ノ爲メニ先セシル、所トナリ又追フヘカラサルニ至ラン故ニ苟モ醫師ニ於テ虎列刺病ト診斷セシ上ハ類似病ナルト假性ナルトヲ問ハス迅速豫防法ヲ施行シ病毒ヲ初發局部ニ撲滅センコトヲ期スヘシ

●第七類 兵 事

(一) 陸軍召集旅費支給所設定

○告示第四十七號 明治廿五年 四月三十日

本年(三月)陸軍省令第五號陸軍召集旅費支出規程第八條ニ依リ郡役所ノ外特ニ定ムル支給所及部内村名左ノ如シ

一 東山梨郡勝沼村役場

日川村 綿塚村 休息村 山村 小佐手村 菱山村 勝沼村 等々力村
鶴瀬村 奥野田村 大藤村 神金村 七里村 玉宮村 (明治廿五年五月告示第
五十二號ヲ以テ追加)

一 南都留郡福地村役場

瑞穂村 明見村 中野村 忍野村 船津村 小立村 勝山村 鳴澤村
西湖村 長濱村 大石村 河口村

一 北都留郡上野原村役場

大目村 梁川村 甲東村 巖村 島田村 大鶴村 上野原村 柵原村
西原村 小菅村 丹波山村

(參 看) 陸軍召集旅費支出規程(明治廿五年三月)抄錄
陸軍省令第五號

第八條

第一項直税分署長若クハ間税分署長ハ地方長官之ヲ定メ島廳郡役所ノ外特ニ支給ノ場所ヲ設ク
ルヲ必要ト認ムルトキハ師團長ハ地方長官ト協議ノ上之ヲ定メ地方長官ヨリ其郡市又ハ島嶼ニ
告示ス可シ

第七類 兵 事

● 第八類 戸 籍

(記載スヘキ事項ナシ)

● 第九類 社 寺

○ 達甲第九號 官有社寺地内へ測量標設置ノ際協議方
明治廿五年 五月十四日

神 社
寺 院

陸地測量諸標ヲ官有社寺内へ設置スル場合實地其時ニ臨ミ出張測量官ヨリ協議有之タルトキ保存及
風致上ニ支障ナキ限リハ其協議ニ應スヘシ

(二) 府縣社以下神官當任者ニハ認可ヲ與フルノ件

○ 縣令第三十五號 明治廿五年 三月三十日

府縣社以下神官ノ義ハ自今左ニ掲グルモノニシテ性行其他適當ト認ムル者ハ皇典講究所學階試験ニ
不拘神官タルノ認可ヲ與フ

祠 官

- 一 維新前五代以上其神社へ奉仕セシ者及ヒ其子孫
- 一 明治十五年八月以前ヨリ奉職勤續ノ者
但現職祠掌ヨリ祠官ニ撰擧スルハ此限リニアラス
- 一 有位者又ハ判任官以上滿二年奉職セシ者
- 一 該神社所在ノ府縣ニ於テ一ケ年直接國稅拾圓以上ヲ納ムル者
祠 掌
- 一 維新前五代其神社へ奉職セシ者及ヒ其子孫
- 一 明治十五年八月以前ヨリ奉職勤續ノ者
- 一 該神社所在地ノ町村長三年以上奉職セシ者

第九類 社 寺

(三) 官國幣社神職試驗規則

○告示第三十二號

明治廿五年
三月三十日

本年內務省訓令第四號ヲ以テ官國幣社神職試驗規則左ノ通り定メラル

官國幣社神職試驗規則

第一條 神職試驗ハ高等尋常ノ二種ニ分ツ

第二條 宮司權宮司ハ高等試驗合格ノ者爾宜主典ハ尋常試驗合格ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 高等試驗ハ內務省ニ委員ヲ設ケ本省ニ於テ施行ス尋常試驗ハ各地方廳ニ委員ヲ置キ施行ス

ル

但高等試驗ト雖トモ時宜ニヨリ地方廳ニ於テ施行スルコトアルヘシ尤問題及試驗成績等

ハ本省ニ於テ撰定スヘシ

第四條 尋常試驗ハ施行前其地方廳ニ於テ豫メ問題ヲ取調本省ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 試驗合格者高等試驗者ヘハ內務省ヨリ尋常試驗者ヘハ其應府縣ヨリ合格證書ヲ付與スヘシ

第六條 宮司權宮司撰舉ノ節ハ高等試驗合格證書寫ヲ添ヘ本大臣ヘ差出スヘシ

第七條 爾宜主典ハ其地方長官限申付其都度本大臣ヘ報告スヘシ

第八條 試驗科目ヲ分ツ左ノ如シ

高等試驗科目

六 國史	問題說明書取	令義解	同上	延喜式	同上
萬葉集	同上	法曹至要抄	同上	考證	一題
作文二題	宣命體公文體				
古事記	尋常試驗科目				
	講義書取				
		土佐日記	同上	職原抄	同上

祝詞式 同上

作文二題 祝詞、公文體

第九條 本試驗合格證書所持ノ者ハ官國幣社神職中該證書相當ノ位置ヘ轉補又ハ再補スルコトヲ得

第十條 左ニ掲グルモノハ試驗ヲ要セス直ニ宮司權宮司ニ補スルコトヲ得

一 其神社神統又ハ維新前十代以上該神社ヘ奉仕セシ重立タル者及其子孫

二 其神社祭神ノ一族臣下ノ内祭神在世ニ於テ功蹟顯著史乘ニ著名アル者ノ統末

三 行政官吏判任官四等八級俸以上滿三年以上奉職セシモノ

四 皇典講究所學階一等司業以上ノ者

五 該神社所在地ノ舊藩主

六 維新前王事執掌ノ功ニヨリ官ノ褒賞ヲ受ケタル者

但以上六項ニ該當スル者ト雖トモ現時性行其他不適當ト認ムルモノハ採用ノ限ニアラス

第十一條 左ニ掲グルモノハ試驗ヲ要セス直ニ爾宜主典ニ申付ルコトヲ得

一 維新前五代以上該神社ヘ奉仕セシ者及其子孫

二 行政官吏判任官以上滿二年奉職セシモノ

三 皇典講究所學階五等司業以上ノモノ

但性行其他不適當ト認ムルモノハ前同斷

第十二條 本規則施行前ヨリ在職ノ者ハ試驗ヲ要セス其現職ニ在ルコトヲ得

第十三條 官幣小社波上宮別格官幣社靖國神社神職ハ本規則ニ不拘從來ノ取扱ニ據ル

第十四條 採用スヘキ人員及職名試驗期日等ハ其時々官報又ハ新聞紙其他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公

告スヘシ

第十五條 本規則ハ明治廿五年四月一日ヨリ施行ス

(四) 府縣社以下神官選舉認可願出方

第九類 社 寺

○告示第四十號 明治廿五年
四月十一日

本年縣令第三十五號ニ依リ府縣社以下神官撰舉認可出願ノ向ハ願書ニ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 先代又ハ本人ノ履歷書
- 一 村長ノ証明シタル直接國稅收納額調書
- 一 村長ノ証明シタル品行調書

(五) 府縣社以下神官撰舉認可出願順序

○告示第五十七號 明治廿五年
六月七日

本年縣令第三十五號ニ依リ府縣社以下神官撰舉認可出願ノ向ハ告示第四十號ノ書類ヲ添付シ市ハ市役所郡ハ村役場并ニ郡役所ヲ經由シ尙神官取締所ノ添書ヲ得テ當廳ニ差出スヘシ但山梨縣神官取締所位置甲府市皇典講究分所内

● 第十類 回漕運輸

(記載スベキ事項ナシ)

第十類 回漕運輸

第十一類 土地及土功

○告示第九號 明治廿五年 二月八日

明治二十三年九月第八十三號告示御料地草木拂下規則及同則施行細則中別紙ノ通更正相成タル旨御料局静岡支廳ヨリ通牒アリタリ

(別紙)

御料地草木拂下規則及同則施行細則中更正

規則第二條ニ左ノ一項ヲ追加ス
實地ノ狀況ニヨリ材積ノ多寡ニ拘ハラス輪伐區域反別ノ平等ヲ要スルモノハ先ツ輪伐區ヲ設シヘキ
森林測量圖ヲ製シ而シテ其輪伐區數ハ前項ニ準シ年次前年ヲ以テ後年ノモノヲ豫定シ並ニ御料局静岡支廳長ノ認可ヲ受クヘシ若シ輪伐區域反別ニシテ平等ヲ得スト認メタルトキハ御料局静岡支廳長ハ其區域ヲ更正スルコトアルヘシ
第七條ノ但書中場合ノ字下ニ「及御料局静岡支廳長ニ於テ人民カ糞肥料ヲ得ルニ必要ナリト認ムル芝草地ハ此例ニアラス」ノ四字ヲ追加シニ於以下ノ十字ヲ削除ス
規則第九條ニ本數尺ノ下ニ束數トアルヲ細數十月三十一日トアルヲ六月三十日ト改ム
全第十一條ニ年度内トアルヲ削除シ同條拂下ノ字下ニ翌年十月三十一日迄ノ九字ヲ挿入ス
全第十三條ニ御料局静岡支廳長ノ許可ヲ得テ前項ノ芝生地ヲ賃借シ樹木ヲ栽培シタルトキハ人民ノ自便ニ任セ隨時伐採スルヲ得サシムヘシ但賃借期限ハ五十年以内ナルヘシ」ノ一項ヲ加フ
御料地草木拂下規則施行細則第二條御料局静岡支廳長ノ下「甲府トアルヲ谷村ト改ム」
全則第六條式例中東トアルヲ渾テ柵ト改メ全七號式例樹木取調表第五欄束數トアルヲ細數ト改メ全式例凡例第五項ニ尺ノ束數ヲ尺ノ細數ト改メ「東」トアルヲ「柵」ト改メ割註ヲ下ノ如ク改ム

(柵ハ方六尺巾三尺)全則第九號式例ノ一二中五尺繩メトアルヲ三尺繩メト改ム

○縣令第二十號 明治廿五年 三月廿一日

公園内建物ヲ公園附屬ト爲スノ件縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通相定ム

一 建物 (望仙閣)

四 棟

此 譯

本 館

壹 棟

湯 殿

壹 棟

但瓦葺平屋造七坪五合

壹 棟

供 待 所

壹 棟

但全上五坪

壹 棟

但全上三坪

壹 式

門柵坂堀塙廊下等

以上公園地内ニ建設

前記建物ヲ公園ノ附屬トス

(三) 公園貸渡規則

○縣令第二十七號 明治廿五年 三月廿三日

公園貸渡規則縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通相定ム

第一條 公園内ノ地所ハ其使用上公園ノ風致ニ障害ナシト認ムルモノニ限り之ヲ貸與ス

第十一類 土地及土功

第二條 貸地料ハ一月一坪ニ付五厘以上貳錢以下ノ範圍内ニ於テ其額ヲ定メ毎月之ヲ徵收ス但臨時貸渡ニ係ルモノハ日割ヲ以テ徵收ス

第三條 專ラ公益ノ爲メニ及公園ノ風致ヲ増補スル使用ニ就テハ特ニ貸地料ヲ減免スルコトアルヘシ

第四條 左ノ事項ハ縣參事會ノ議決ヲ經ヘシ

- 一 貸地料上納延期一月以上ニ涉ルモノ、許否
- 二 貸地料ノ減免
- 三 望仙閣管理ノ方法
- 四 園地貸渡ノ方法

五 臨時貸渡ヲ除クノ外貸地料額及貸渡期限

六 公園内使用人心得書ノ創定及改正

第五條 此規程施行以前貸渡ニ係ルモノハ其貸渡期限内ハ猶從前ノ規程ニ依ル

(四) 公園内借用人心得

○告示第三十六號

明治廿五年
四月四日

公園内借用人心得縣參事會ノ決議ヲ經左ノ通相定ム

第一章 家屋建設ノ爲メ借地スル者ノ心得

第一條 家屋建設ノ爲メ公園内ノ地所ヲ借用セントスルモノハ願書ニ左ノ各款ヲ具シ當廳ヘ願出ス

一 借地坪數及地區

一 借地料一月月額

一 借用期限

一 建設ノ家屋ニ於テ營ム職業ノ種目

一 家屋及附屬建物ノ位置構造

一 地區并ニ家屋及附屬建物ノ位置構造ヲ見ルヘキ繪圖

一 工事着手及落成ノ期日

第二條 前條借用ノ許可ヲ受ケタルモノハ后ニ示ス書式ニ依リ受書ヲ差出スヘシ請書ヲ差出サ、ル
問ハ借用ノ効ナキモノトス

第三條 借地料ハ前條調書ト共ニ其月分ヲ納付シ爾後毎月一日^{休應日ナレハ順延}其月分ヲ前納スヘシ

第四條 家屋其他附屬建物ノ工事落成シタルトキハ使用前當廳ヘ届出認可ヲ受シヘシ

第五條 家屋其他附屬建物ノ位置若シハ外觀ニ關スル構造ヲ變更シ又ハ新ニ建物ヲ増設セントスル
トキハ其位置構造等ヲ具シ當廳ノ許可ヲ受ケ其工事落成シタルトキハ前條ニ依ルヘシ

第六條 家屋其他附屬建物ノ外觀ニ關スル箇所破損ヲ生シタルトキハ速ニ修理ヲ加フヘシ若シ其修
理ヲ加ヘ難キ事情アルモノハ當廳ヘ申出テ許可ヲ受シヘシ

第七條 家屋其他附屬建物ヲ他人ニ貸與若クハ据置ノ儘賣渡シ又ハ讓渡ヲサントスルトキハ双方
連署ノ上當廳ヘ申出認可ヲ受シヘシ

第八條 前條賣渡又ハ讓渡ノ認可ヲ得テ之レヲ賣渡又ハ讓渡シタルトキハ借地人ハ地所返納買取又
ハ讓受人ハ地所借用ノ手續ヲナスヘシ

第九條 但借地人地所返納ノ手續ヲナサ、ル間ハ本則ニ對スル責ハ借地人ニ於テ負擔スヘキモノトス

第十條 借地内ハ怠リナシ掃除ヲ爲シ塵芥其他不潔物ヲ取散スヘカラス

第十一條 借地人公園内ニ住居セサルトキハ公園内居住人ノ中相當ノ代理人ヲ定メ代理人連署ノ上
當廳ヘ届出ヘシ但借地人ノ居住公園近傍ナルトキハ當廳ノ許可ヲ得テ代理人ヲ置カサルコトヲ得

第十一類 土地及土功

五

第十二條 借地ノ全部又ハ其幾部分當廳ニ於テ入用ノ節ハ借用期限内ト雖モ期日ヲ定メ返納セシムルコトアルヘシ但本條ノ場合ニ於テ建物等取拂フトキハ當廳ニ於テ相當ト認ムル取拂費ヲ給ス

第十三條 借地ヲ返納スルトキハ跡地ハ摠テ原形ニ復スヘシ

第十四條 借地期限内自己ノ都合ニ依リ借地ヲ返納スルトキハ其月末日迄ノ借地料ヲ全納スヘキモノトス

第十五條 借地内ノ掃除不行届又ハ返地ニ係ル跡地原形ニ復シ方不完全ト認ムルトキハ當廳ニ於テ之ヲ執行シ其費用ヲ徴收スルコトアルヘシ

第十六條 第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條ニ違背シタルモノ及左ノ各款ニ該當スルモノハ借地期限内ト雖モ返地ヲ命スルコトアルヘシ

一 借地内掃除不行届ニ付再度以上當廳ノ執行ヲ受ケタルモノ
一 工事成期限ヲ過ルニケ月以上工落成セサルモノ

第二章 一時使用ノ爲メ借地スルモノノ心得

第十七條 一時使用ノ爲メ公園内ノ地所ヲ借用セントスルモノハ左ノ各款ヲ具シ當廳ヘ願出ヘシ

- 一 借地坪數及地區
- 一 使用ノ目的
- 一 借地料一日額
- 一 使用ニ關スル場所設置ノ摸樣
- 一 地區及場所設置ノ摸樣ヲ見ルヘキ繪圖
- 一 借用日限

第十八條 前條許可ヲ受ケタルモノニハ已下各條ノ外本則第二條第十條第十三條第十五條ヲ適用ス

第十九條 借地料ハ借地ニ對スル請書ト共ニ借用日限内ノ全額ヲ前納スヘシ

第二十條 借地日限内自己ノ都合ニ依リ借地ヲ返納スルモ前納ノ借地料ハ之レヲ返付セズ

第二十一條 第十九條ニ違背シタルモノ及ヒ借地内ノ掃除不行届ニシテ二回以上當廳ノ執行ヲ受ケタルモノハ借地日限内ト雖モ返地ヲ命スルコトアルヘシ

第三章 附 則

第二十二條 本則規程以外ノ目的ヲ以テ公園内ヲ借用セントスルモノハ當廳内務部ニ就キ其手續ヲ承合スヘシ

御 請 書

公園借地人

何 某

自分儀何々ノ爲メ公園内地所借用ノ儀向キニ出願候處本月何日付御許可相成候ニ付テハ現行公園内借用人心得書ハ勿論今後該心得書ノ改正増補又ハ創定ノ御成規臨時ノ御命令等確シ遵守可致候若シ之ニ違背之行爲有之候トキハ保証人ニ於テ督責ヲ加フルハ固ヨリ借地料其他御應ヘ上納スヘキ金圓ニシテ滞納スルトキハ保証人ニ於テ本人ニ代リ上納可致候此段御請仕候也

年 月 日

住 所 何 某
右

保証人 何 某

知 事 宛

(五) 道路堤防及並木敷使用規則

○縣令第二十四號 明治廿五年 三月廿三日

道路堤防及並木敷使用規則縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通り相定ム

第十一類 土地及土功

第一條 縣稅支辨ニ屬スル道路堤防敷地及並木敷地ハ其使用ノ目的ヲ防ケサルモノニ限リ相當ノ使用料ヲ徵シ其使用ヲ許可ス但專ラ公益ノ爲メニスル使用ニ就テハ特ニ使用料ヲ免除スルコトアルヘシ

第二條 使用料ノ額ハ左ノ場合ニ該當スルモノハ隨意ノ契約ニ依リ其他ハ凡テ競争ニ附シ其最高額ニ依リ之ヲ定ム

一 從前ノ使用者ニ對シ其年期繼續ヲ許可スル時

二 接續ノ隣地主ニ於テ其居住地若クハ營業地區ニ圍入レ使用セラレハ不便アル時

三 郡市村公共ノ事業ニ付特ニ其地ノ必要アル時

四 使用料見積年額壹圓以內ノモノ

五 競争ニ付シ二人以上ノ望人ナキモノ

第三條 使用料ハ其期限一ケ年ヲ超ユルモノハ毎年其他ハ許可ノ前納セシム

第四條 使用期限ハ其樹竹培養ハ五十年以內其他ハ凡テ十年以內トス

第五條 許可期限中ト雖トモ主用ノ目的ニ防ケテ生シタリト認ムル時ハ其使用中止シ若クハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第六條 使用人ハ其地ヲ許可ノ目的以外ニ使用セントスルトキハ其許可ヲ受クヘシ

第七條 左ノ事項ハ縣參事會ノ議決ヲ經ヘシ

一 使用料ノ免除

二 隨意契約ニ依ル使用料額ノ決定

三 使用料上納ノ延期ニ付テ一ケ月以上ニ涉ルモノ

四 土地使用人心得書ノ創定及改正

第八條 縣有ニ屬スル土地ニシテ其貸渡ヲ要スルトキハ本則ニ準據シ貸與ス

第九條 本則ハ明治廿五年四月一日ヨリ施行ス

(六) 堤防所屬樹竹林委託規則

○縣令第二十五號 明治廿五年三月廿三日

堤防所屬樹竹林委託規則縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通り相定ム

第一條 縣稅支辨ノ堤防ニ屬スル樹竹林ハ其地受持市村ニ其保護ヲ委託ス

第二條 市村ハ委託林ノ保護法ヲ設ケ市ハ直ニ村ハ郡役所ヲ經テ知事ノ認可ヲ請フヘシ

第三條 樹竹林ノ保護ヲ委託シタル市ニハ其手當トシテ毎年度其保護林ヨリ實際ニ收入シタル竹木代金ノ半額ヲ交付ス

(七) 堤防所屬樹竹林委託規則取扱順序

○訓令第十號

明治廿五年四月一日

郡	役	所
市	役	所
村	役	場

本年三月縣令第二十五號堤防所屬樹竹林委託規則取扱順序左之通相定ム

但本令ニ抵觸スル從前ノ令違ハ自今廢止ス

第一 市村長ハ委託林保護法ヲ設ケ認可ヲ請フトキハ別紙書式ニ倣ヒ樹竹林坪數等ノ調書ヲ添付ス

第二 市村長ハ依託林保護手入ノ爲メ洗伐若クハ下薪ヲ要スル時ハ其竹木ノ員數寸尺若クハ束數及豫定價格並伐採ヲ要スル事由ヲ詳記シ市長ハ直ニ村長ハ郡役所ヲ經テ縣廳ニ申出ツヘシ

但竹林伐採ハ八月ヨリ十二月ノ間ニ於テ發生後三年已上ヲ經タルモノニ限ル

第三 出水ノ時臨時水防ノ用ニ供シ若クハ水防障害トナル竹木ニ限リ水防ニ從事スル者ハ堤防林ノ

第十一類 土地及土功

竹木ヲ伐採スルモ妨ナシ

第四 市村長ハ前項ニ依リ伐採セシ竹木ハ其員數寸尺若クハ束數及其事由并ニ障害ノ爲メ伐採セシ竹木現存スルトキハ其豫定價格所在ヲ詳記シ市長ハ直ニ村長ハ郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

堤防所屬樹竹林坪數及竹林調書

何 郡 村

何川通何村地内

一堤塘竹林坪數

此立竹木數

長何間ヨリ
長何間マテ

目通何寸ヨリ
目通何寸マテ

内

川表堤堰坪數

横長

此立竹木數

川裏堤堰坪數

横長

此立竹木數

全堤脚坪數

横長

此立竹木數

同所

一堤外樹竹林坪數

此立竹木數

一樹林ハ木種限リ内譯ニ取調竹林ハ各竹長ヲ記スルニ及ハス

一川裏ハ堤堰ト堤脚ニ川表ハ堤堰ト其以外ニ出ツルモノト區別スヘシ

一堤堰ハ堤塘馬路ノ肩ヨリ傾斜面ニ丈量シ坪數ヲ算出スヘシ

但平地ハ平面丈量ニ依ル

一地圖零圖ヲ製シ此調書ニ添付スヘシ

(八) 釜無川外四ヶ川沿岸地實測ノ件

○告示第四十九號 明治廿五年五月六日

縣下釜無、笛吹、鵜飼、日、瀧澤ノ五ヶ川沿岸左記各村地先ニ就キ實測ス

北巨摩郡 穴山村 祖母石村 河原部村 鹽崎村 圓野村 清香村 神山村 大草村 龍岡村 下

條村

(廿五年五月告示第

五十六號ヲ以追加

南巨摩郡 増穂村

中巨摩郡 御影村 明穂村 三恵村 南湖村 榑村 大井村 五明村 二川村 三町村 稻積村

花輪村 忍村

東山梨郡 諏訪村 岩手村 八幡村 上万力村 平等村 春日居村 岡部村 松里村 日下部村

加納岩村 日川村

東八代郡 相興村 一櫻村 清野村 石和村 富士見村 白井河原村 上曾根村 下曾根村 豊富

村 英村 増田村

西山梨郡 甲運村 清田村 住吉村 山城村 朝井村

西八代郡 大塚村 上野村 市川大門村

(九) 町村地圖調製方

○訓令第七十五號 明治二十年九月

第十一類 土地及土功

郡 役 所
戸 長 役 場
十一

地租改正ノ際調製セシ町村地圖ハ概テ製圖者ノ不慣熟ナリシガ爲粗漏ニシテ一筆ノ廣狹形狀等實地ニ適合セズ或ハ脱落重複又ハ道路溝渠等ノ位置ヲ轉倒スル等不完備ヲ免カレザル者多シ加之地租改正以降十余年間頻繁地目ノ異動アルモ地圖上ニ其改正ヲ加ヘズ今日ニ至ル頗ル錯雜ヲ極メタルニヨリ客年來地押調査ニ際シ各町村トモ更ニ新調セシメタルモ尙ホ實地ト齟齬シ到底地圖ノ用ヲ全フスル能ハザルモノアルニヨリ追々之ガ改正ニ着手ノ町村アリ元來地圖ハ各町村ノ實況ヲ詳カナラシムルモノニテ地租ノ調査上ハ勿論土地百般ノ徵証上至要ノモノニ付今般地圖調製式及更正手續別冊ノ通り相定候條右ニ準據シ漸次更正シ出來ノ上ハ町村圖ハ一部字圖ハ正副二部ヲ當廳ニ差出スベシ右訓令ス

町村地圖調製式及更正手續

- 第一項 地圖ヲ調製スルニハ從來ノ分間法又ハ板分間法等ニ據ル
- 第二項 地圖ハ村圖字圖ノ二種ヲ製シ村圖ニハ(甲)號離形ノ如ク每字ノ地形ヲ畫キ字圖ニハ(乙)號離形ノ如ク每筆ノ地形ヲ畫クベシ
- 第三項 市街地ハ全市街ヲ數區ニ區畫スルカ若クハ一町毎ニ(丙)號離形ニ倣ヒ其圖面ヲ調製スベシ
- 第四項 地圖ハ(甲乙丙)號離形ニ依リ其符合及書式ニ從ヒ調製スベシ
- 第五項 町村圖ハ五間ヲ以テ曲尺一分(即チ二千分の一)トシ字圖ハ一間ヲ以テ曲尺一分(即チ六百分の一)トスベシ
- 第六項 地圖ノ用紙ハ美濃紙ヲ用ヒ裏打ヲ爲スベシ
- 第七項 但字ノ大ナル者ハ二枚以上ヲ繼合セ又小ナルモノハ一枚中ニ二字以上ヲ畫クモ妨ケナシ
- 第八項 町村圖ハ一部字圖ハ正副各一部ヲ戶長役場ニ備置シベシ
- 第九項 但本圖明瞭ニシテ其儘使用シ得ベキ者ハ新調スルノ限リニアラズ
- 第十項 但本圖明瞭ニシテ其儘使用シ得ベキ者ハ新調スルノ限リニアラズ
- 第十一項 記載添付スルモ妨ケナシ

但睦畔ヲ設クル者ノ如キハ副圖ニ其線點ヲ畫シ廢スル者ハ其虛線ヲ畫スベシ

第九項 地圖調製後道路河川ノ位置ヲ變更スルカ又ハ鐵道ノ敷設等其他ノ事故ニ由リ町村ノ大体ニ

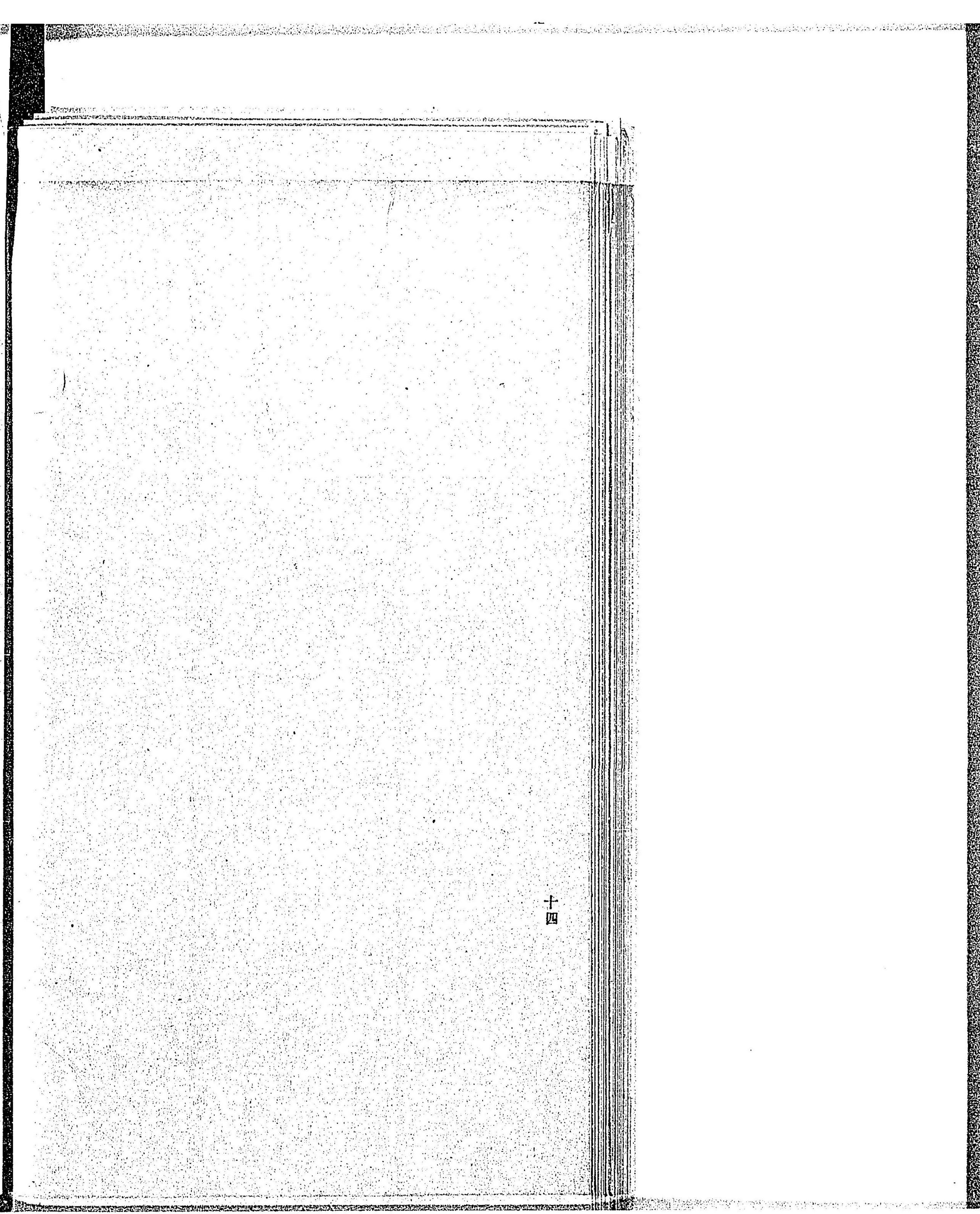
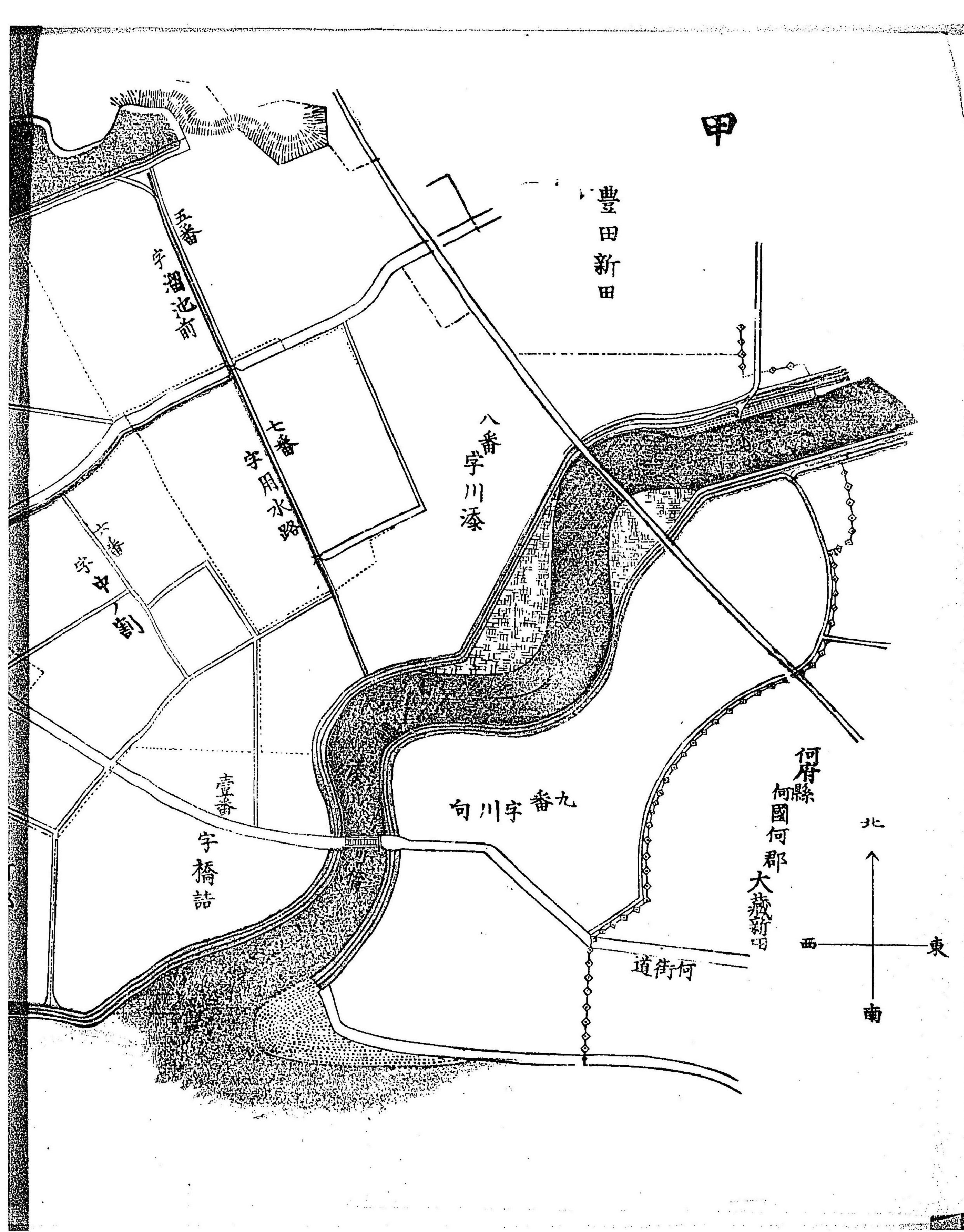
變易ヲ來シ其儘差置キ難キモノハ再製スベシ

第十項 地圖ハ年々異動地ヲ修正セシ副圖ニツキ正圖及副圖トモ十ヶ年毎ニ更ニ調製シ年月ヲ記載

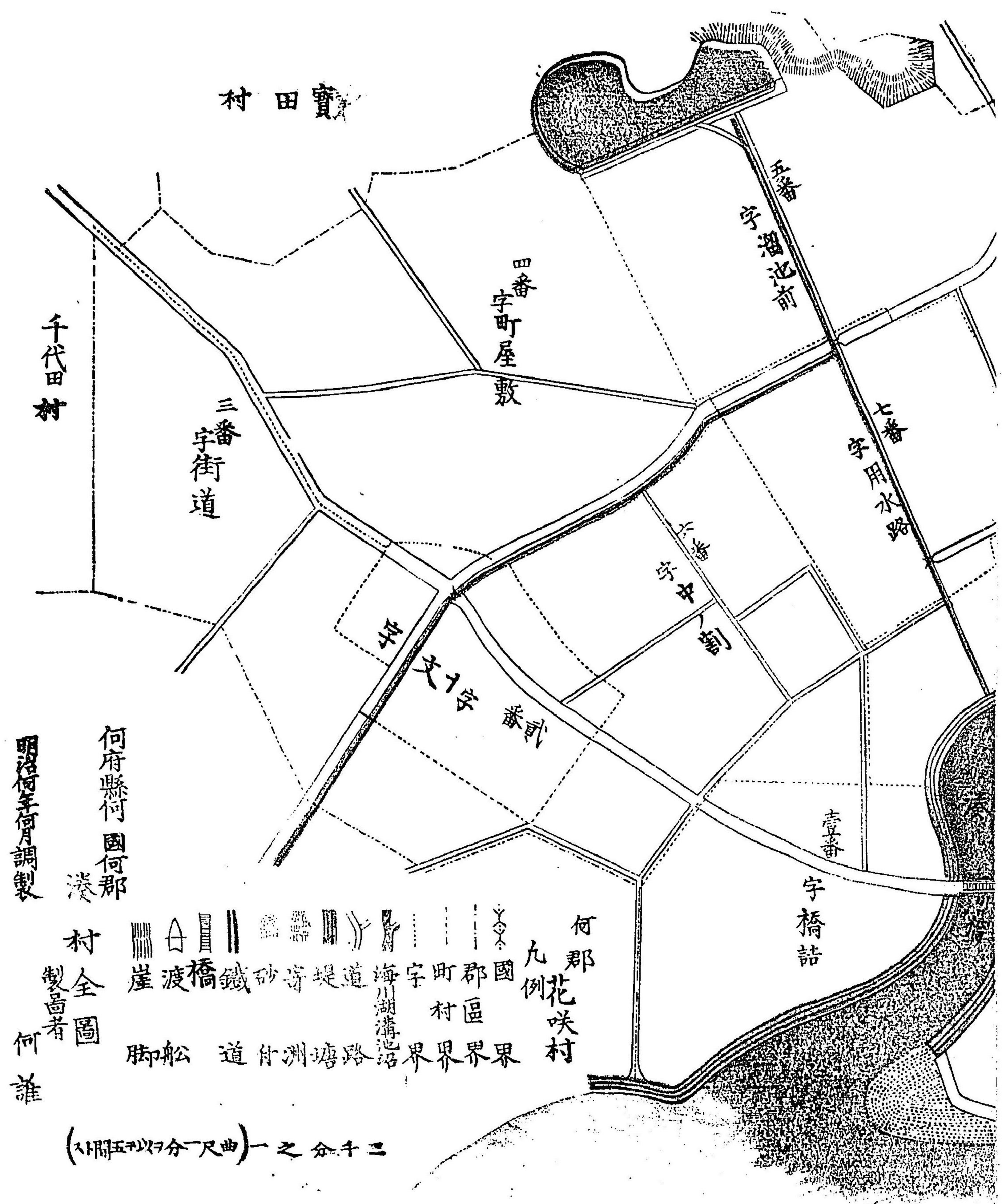
シ製圖者之ニ記名捺印スベシ

第十一項 但本圖明瞭ニシテ其儘使用シ得ベキ者ハ新調スルノ限リニアラズ

記載添付スルモ妨ケナシ



村田寶



明治何年何調製

何府縣何國何郡

何郡 九例 花咲村
 國界 郡界 町界 字界
 海川湖溝沼 堤 砂 鐵 橋 渡 崖
 脚船 道 付洲塘路

(不間五利以分一尺曲)一之介千二

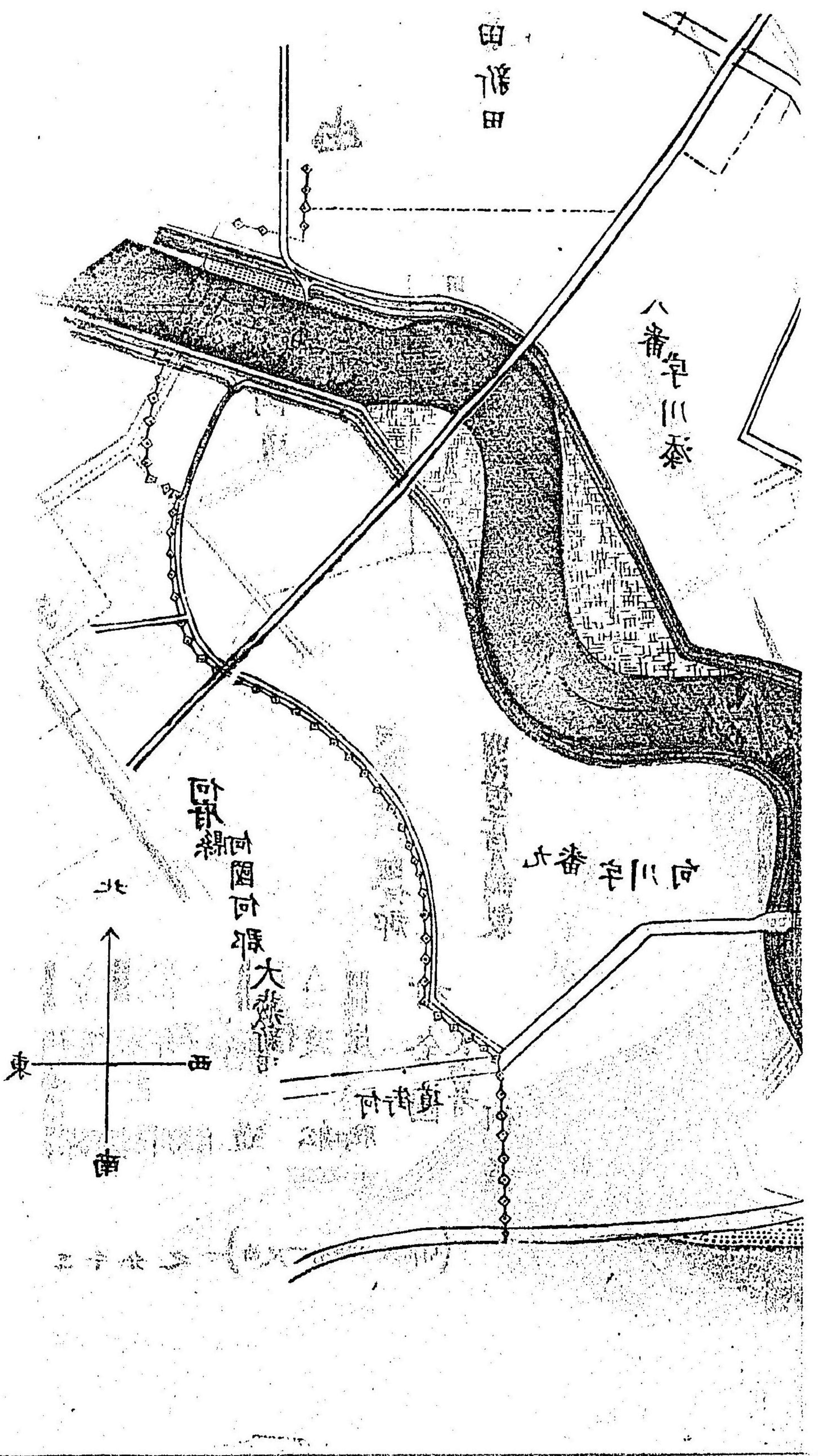
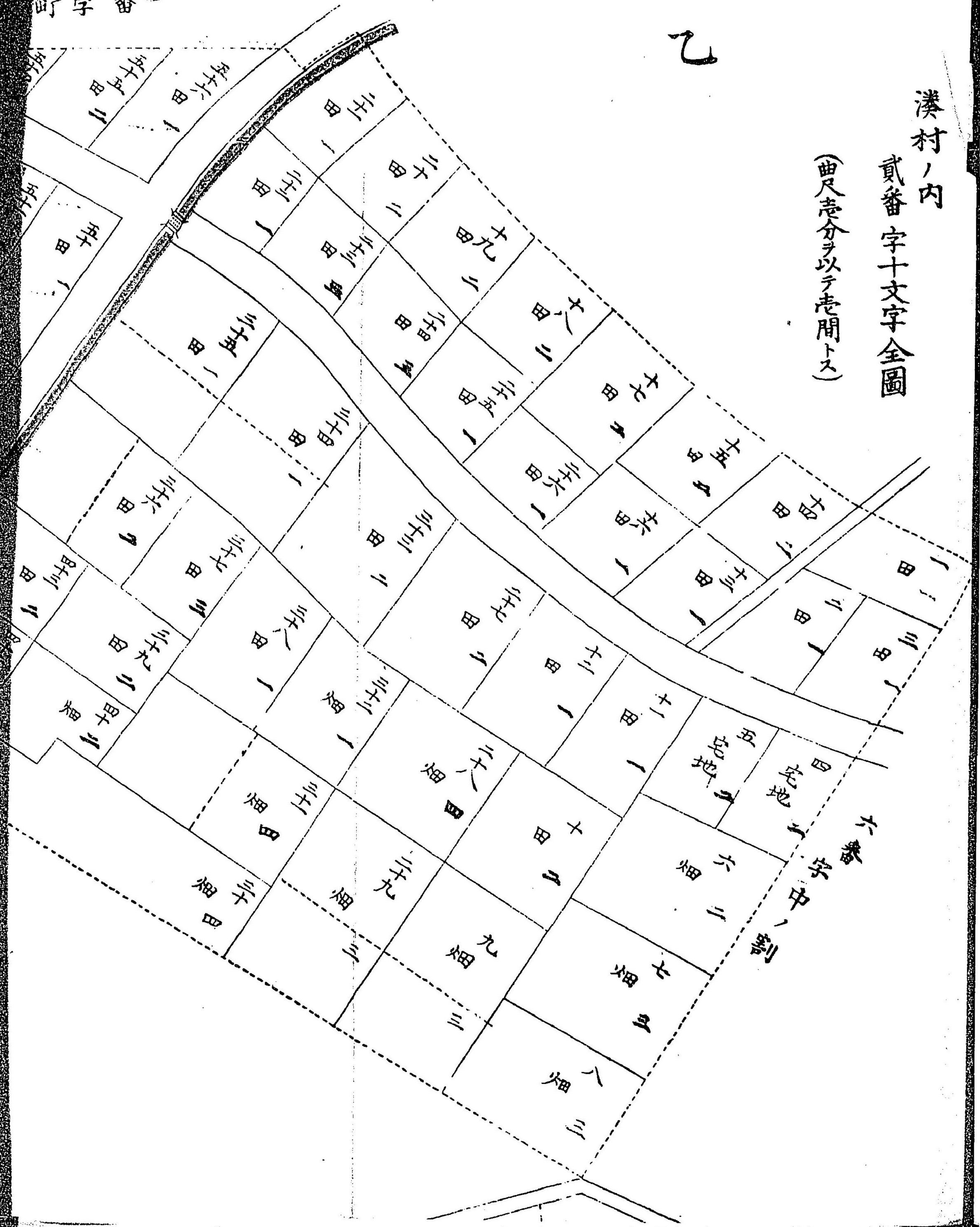
町字番四

乙

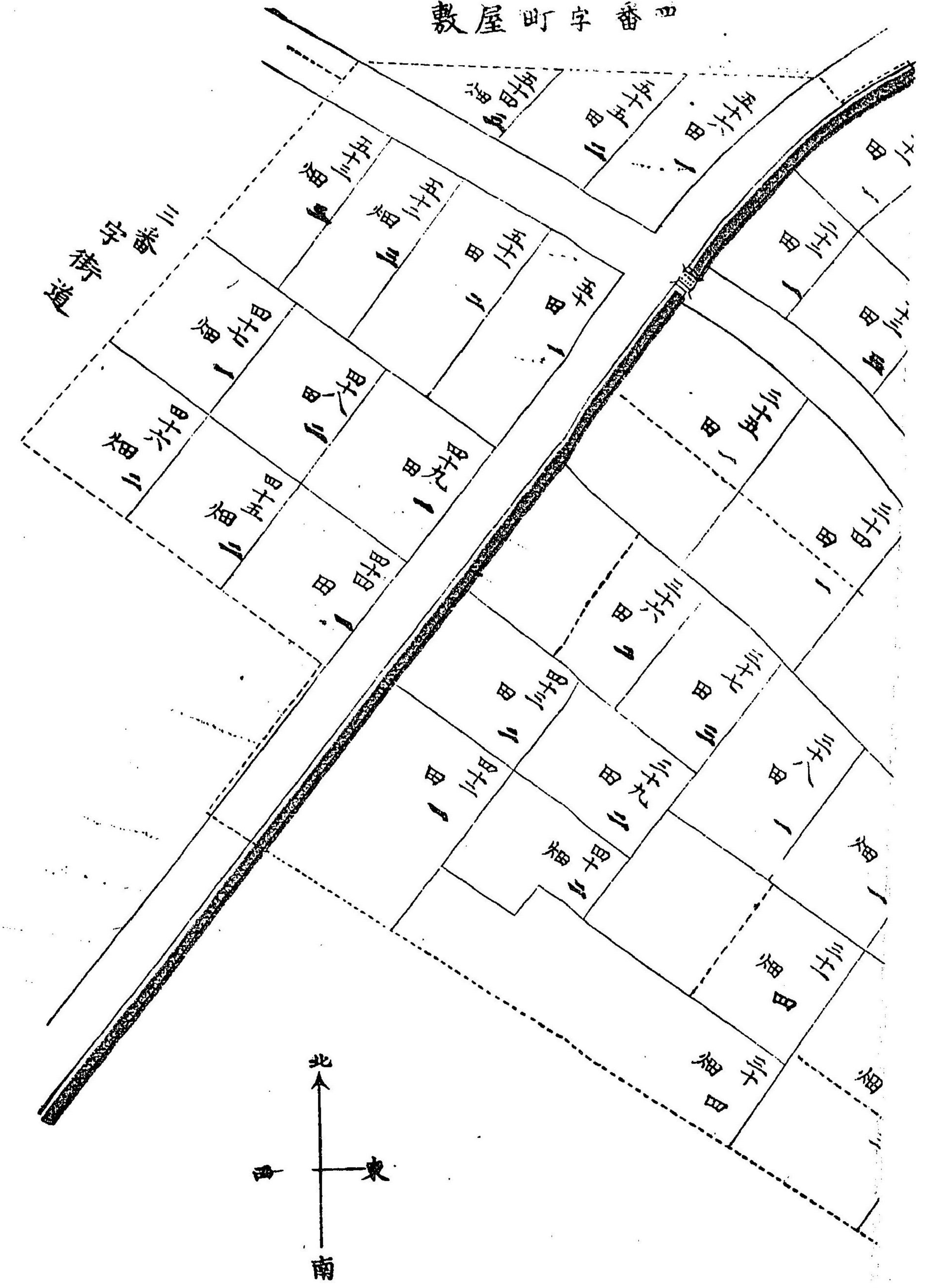
溪村ノ内

貳番字十文字全圖

(曲尺毫分ヲ以テ毫間トス)



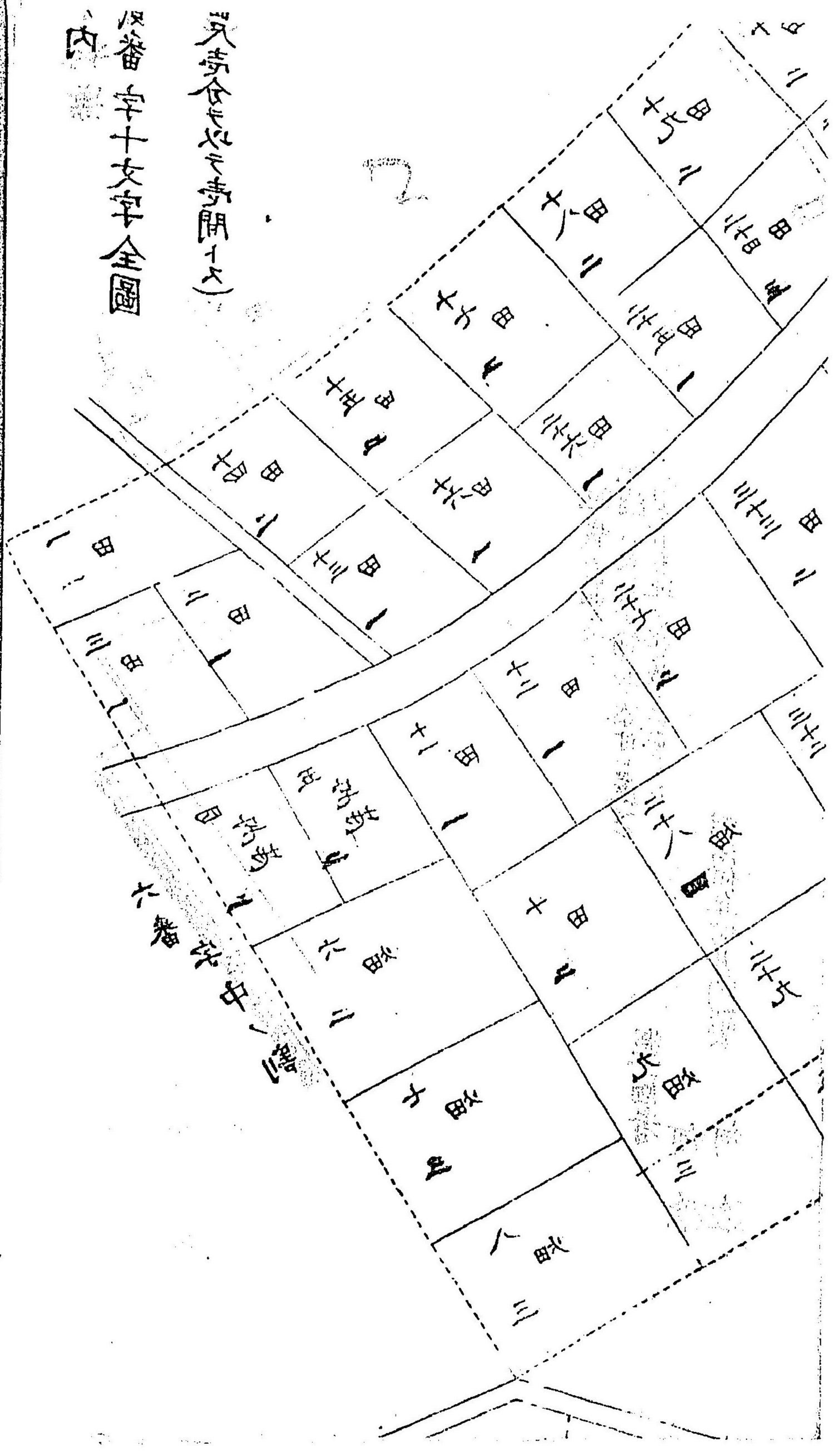
敷屋町字番四



凡例
 数字黒番號
 △朱地位等級

他村ノ飛地及在ルモノハ何村飛地ト記載シ置ク
 自村ノ土地他村ニ飛地スルモノハ別ニ飛地圖ヲ製シ字繪ニ添付シ置ク
 官有地ノ字在ルモノハ其地番號及何々官有地ト記載シ置ク

明治何年何月調製
 何何 製圖者
 誰誰



又此合を以て開ス

六番字十五字全圖

内

(十) 町村地圖調製期限

○訓令第十六號 明治廿五年 四月廿五日

市 郡 役 所

明治廿年(九月)訓令第七十五號ニ依リ調製スヘキ町村分間地圖ハ明治廿六年十二月限り調製ノ上所
轄直税分署ニ差出スヘシ

第十一類 土地及土功

十五

● 第十二類 出納

(一) 各種金員ヲ地方稅ニ引繼キ管理スルノ件

○縣令第三十一號 明治廿三年四月十二日

各種金員ヲ地方稅ニ引繼クノ件縣會ノ議定ヲ經テ左ノ通り相定ム

一金千四百四圓八拾三錢六厘

內譯

衛生恩賜金(廿二年十月現在)

金千拾六圓三拾錢

金三百八拾八圓五拾三錢六厘

一金貳萬四千四百八拾九圓九拾四錢壹厘

內譯

整理公債證書
病院資本金(全上)

金九千拾圓三厘

金四千八百貳拾四圓七拾五錢四厘

金五千四拾九圓三拾壹錢九厘

金五千六百五圓八拾六錢五厘

一金百五拾六圓貳拾貳錢六厘

內譯

貸付金
菓木代
整理公債證書
銀行預金
恤救金(全上)

金百五拾六圓貳拾貳錢六厘

一金壹萬貳千三百貳拾圓四拾錢八厘

內譯

現學資金(全上)

金四拾四圓五拾七錢六厘

金壹萬貳千貳百七拾五圓八拾三錢貳厘

第十二類 出納

現貨附金

一金七百四拾四圓四拾九錢	內譯	土木資金(全上)
金貳百八拾三圓七拾四錢		現
金四百六拾圓七拾五錢		貸附金
一金貳百六拾五圓九拾九錢八厘	內譯	架橋資本積立金(全上)
金貳百四拾四圓九拾九錢八厘	內	穴山橋
金貳拾壹圓	內	現
金貳拾壹圓	內	船山橋
一金五百拾壹圓三拾貳錢四厘	內譯	現
金五百拾壹圓三拾貳錢四厘		富士川通船賦金(廿三年三月末日現在)
一金九千七百七拾圓四拾四錢五厘	內譯	現
金八千五百五拾四圓五拾三錢五厘		土木基本金(廿二年十月現在)
金千六百拾五圓九拾壹錢		現
一金貳萬六千七百七拾壹圓五錢八厘	內譯	監獄工業基本金(廿二年末日現在)

金三千六百七拾貳圓拾六錢四厘	現	現金
金千貳百七拾圓六拾九錢八厘	貸	附金
金五千貳百六拾七圓拾三錢七厘	素	作品代
金九千貳百四拾六圓四拾五錢九厘	製	作品代
金貳百五拾圓	菓	木代
金貳百四拾五圓	家畜	禽飼魚代
金七百貳拾圓	樹	木代
一金貳萬六千六百八拾貳圓五拾六錢五厘	管內	共有儲蓄金(廿三年二月廿四日現在)
內譯		
金貳百四拾七圓拾壹錢五厘	現	金
金貳千四百六拾圓貳拾九錢八厘	整理	公債証書
金七千四百九拾九圓六拾貳錢七厘	新	貸付金
金壹萬六千八百貳拾五圓五拾貳錢五厘	舊	貸付金

前記各種金員ハ、地方稅附屬ノ財産ト爲シ左ノ規程ニ從テ之ヲ管理ス
 一 衛生恩賜金并病院資本金ハ、特別ニ之ヲ保存シ其利息ヲ以テ地方稅ノ別經濟ニ屬スル縣立病院ノ事業ヲ經營ス
 縣立病院費ノ收入支出豫算ハ、毎年縣會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム
 縣立病院ヲ廢シタル場合ニ於テ衛生恩賜金并病院資本金ノ處分ハ、更ニ縣會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム
 一 恤救金、學資金、土木資金、架橋資本積立金、富士川通船賦金ハ、管內共有貯蓄金ニ編入シ從來ノ管內共有貯蓄金ト共ニ該規則ニ依テ之ヲ管理ス
 但本項ノ各種金員ニシテ寄付ニ係リ費途ノ目的ヲ指定アル分ハ、他ノ金種ト區別シテ之ヲ貯蓄ス

第十二類 出 納

三

管内共有貯蓄金規則ハ此際更ニ縣會ノ議決ヲ經テ改正スヘシ
明治廿五年三月縣令第十八號ヲ以テ第三項第四項削除

一 監獄工業基本金ハ監獄附屬ノ財産トシテ地方税ノ經濟ト區別シテ專ラ囚徒ノ作業ニ關スル資費ノ運用并囚徒使役ノ科業ニ充ツ

工業基本金ハ固定資本ヲ除キ流動資本貳万圓ニ達スル程度トシ其餘ノ益金ハ此規定ニ依リ購入スル固定資本ニ供用シ其餘ハ管内共有貯蓄金ニ編入シ他ノ金種ト區別シテ之ヲ貯蓄ス

固定資本ハ從來ノ固定資本ヨリ自然ニ増加チ生スルモノ及此規定ニ依リ新ニ購入スル物件ノ外今後別ニ之レカ増加チ爲サス若シ將來別ニ増加ノ必要アルトキハ更ニ縣會ノ議決ヲ經ベシ

一 病院資本金ニ屬スル菓木ハ代價四千八百貳拾四圓七拾錢四厘ヲ以テ監獄工業基本金ノ内ニ引取リ其代金ハ今後監獄工業ノ益金ヨリ漸次病院資本ニ戻シ入ルベシ

(二) 管内共有貯蓄金管理規則

○縣令第二十一號 明治廿五年三月廿三日

管内共有貯蓄金管理規則縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通り相定ム

第一條 管内共有貯蓄金ハ左ノ數種ニ區分シテ之ヲ管理ス

一 舊管内共有貯蓄金

維新前舊政府ニ於テ非常豫備ノ爲メ儲蓄シタル金種ヲ轉傳繼承シ來リタル金員其大部ヲ占ムルモノ

二 學資金

置縣ノ始メ縣下篤志者ヨリ興學ノ資トシテ寄付シタルモノ

三 土木資金

置縣以降縣下篤志者ヨリ土木事業ノ費用トシテ寄付シタルモノ

四 土木基本金

明治八年ヨリ全十二年三月マテ土木事業ノ費用ニ充ツル爲メ縣下舊石高百石ニ付金貳圓ツ

ハナ賦課徴收シタルモノ

五 架橋資本積立金

縣下船山橋及穴山橋板橋ノ架設及ヒ橋錢徴收ヲ特許シ其特許ニ對シ異日本橋架設ノ資トシテ積立金ヲ徴收シタルモノ

六 勸業授産資本金

内務大藏兩省ヨリ勸業資本金トシテ委託セラレタル金員ニシテ明治廿三年勅令第六十六號ニ依リ縣ノ經濟ニ下付セラレタルモノ

七 富士川通船賦金

富士川漕運事業ヲ保護スルノ費用ヲ償フカ爲メ明治八年ヨリ全二十三年マテ其通船ニ對シ若干ノ金員ヲ賦課徴收シタルモノ

將來新ニ儲蓄金ニ編入スルモノニシテ前項ノ種類ト混同スヘカラサルモノハ前項ノ例ニ依リ區分管理ス

第二條 管内共有貯蓄金ハ凡テ公債証書ト爲シテ之ヲ儲蓄ス

從前貸付ニ係ル儲蓄金ハ其償還アルニ從ヒ公債証書ニ變換ス

第三條 前條第二項ノ償還金及凡管内共有貯蓄金ニ收入スル金員ニシテ公債証書ニ變換セサル間ハ

凡テ銀行預ケ金ト爲シテ之ヲ儲蓄ス

第四條 管内共有貯蓄金ノ管理ニ就キ左ノ事項ハ縣參事會ノ議決ヲ經ヘシ

一 公債証書ヲ買入シ及交換スル事

二 從前貸付金ノ償還期限ヲ伸縮シ若シハ償還ノ方法ヲ定ムル事

第十二類 出 納

三 從前貸付金ノ利子ヲ減免スル事

四 從前貸付金ニ係ル訴訟ヲ提起シ若シハ解訴ヲ爲ス事

第五條 第一條ニ規定スル管內共有儲蓄金ノ種類中第二以下及將來新ニ管內共有儲蓄金ニ編入スルモノニシテ既定ノ種類ト區分シ管理スルヲ要スル金員ハ其成立タル目的外ニ支出スルヲ得ス

第六條 管內共有儲蓄金ノ收支ハ毎年度縣會ノ議決ヲ經テ其豫算ヲ定ムヘシ

第七條 管內共有儲蓄金ノ收支決算ハ次回ノ通常縣會ニ報告スヘシ

第八條 管內共有儲蓄金ノ收支豫算書及決算書ノ式並費目ノ流用ハ縣ノ歲入出豫算書及決算書ノ式並ニ費目流用ノ規定ヲ準行ス

第九條 管內共有儲蓄金ノ收支豫算決定シ及其決算ヲ縣會ニ報告シタルトキハ其要領ヲ縣內ニ告示スヘシ

第十條 管內共有儲蓄金中舊貸下金(明治十四年本金中舊管內共有儲蓄金)特別處分ノ方法ニ就テハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 本則ハ明治廿五年度ヨリ之ヲ施行シ明治廿三年縣令第二十四號管內共有儲蓄金取扱規則ハ同時ニ之ヲ廢止ス

(三) 需用品管理規則

○縣令第二十二號 明治廿五年三月廿三日

需用品管理規則縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通り相定ム

第一條 此規則ニ於テ需用品ト稱スルハ縣稅支辨ノ事業ニ關スル備品消耗品ヲ云フ但監獄工業基本金ニ關スルモノハ此限ニアラズ

第二條 需用品ハ當該部署長(郡長院長校長)ノ監督ニ屬シ其需用者ニ交付シタルモノハ需用者之ヲ保管シ其他ハ出納主務者之ヲ保管スヘシ

第三條 各部署ニ於テハ出納帳簿ヲ備ヘ需用品出納ノ事實ヲ登記スヘシ

需用品ハ消耗賣却亡失毀損生産ノ爲メノ消費等總テ出納主務者ノ保管ヲ離ル、ヲ出トシ購入生産等總テ其保管ニ屬スルヲ納トス

第四條 需用品ハ部署長ノ命令アルニアラサレハ之ヲ出納スルコトヲ得ス但毎年度豫メ種類數量ヲ限リ其範圍内ノ出納ハ出納主務者ニ委任スルコトヲ得

第五條 需用品保管ノ責アル者若シ其需用品ヲ故意又ハ怠慢ニ由リ亡失毀損シタルトキハ相當ノ代價若シハ代品ヲ以テ之ヲ辨償セシム

第六條 各部署ハ檢査ヲ受クル爲メ需用品中消耗品ハ每三ヶ月一回備品ハ毎年一回各帳簿ノ結果ヲ直接ニ保管ノ責ナキモノト雖モ故意又ハ怠慢ニ由リ需用品ヲ亡失毀損シタルトキハ仍前項ニ依ル

第七條 此規則ハ明治廿五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(四) 需用品取扱順序

○達乙第五十五號 明治廿五年三月廿六日

郡 役 所

明治廿五年三月山梨縣令第二十二號需用品管理規則ニ基キ需用品取扱順序左ノ通り相定ム

但帳簿様式并報告書式ハ別ニ之ヲ頒ツ

需用品取扱順序
第一條 需用品出納ハ現ニ其需用品ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分ス其年度ハ一般ノ會計年度ニ同シ

第二條 各部署(郡役所縣立學校病院)ニ於テハ需用品出納主務者一名(内務部ハ各課ニ一名)ヲ撰定シ需用品一切ノ出納事務ヲ掌理セシムヘシ

第十二類 出 納

第三條 需用品管理規則第三條出納帳簿ハ左ノ各種類トス

備品出納元簿 附錄第一號様式ノ通

本簿ハ備品ノ出納ヲ總括ス

備品受渡簿 附錄第二號様式ノ通

本簿ハ備品ノ受渡内譯ヲ明カニス

消耗品出納簿 附錄第三號様式ノ通

本簿ハ消耗品一切ノ出納ヲ總括シ兼テ内譯ヲ明カニス

第四條 需用品管理規則第六條備品消耗品報告書ハ左ノ期限ニ從ヒ附錄第四號

ニ依リ調製提出スヘシ

(明治廿五年四月達乙第
六十五號ヲ以テ改正)

消耗品

第一期四月五月六月三ヶ月分七月十日限リ

第二期七月八月九月三ヶ月分十月十日限リ

第三期十月十一月十二月三ヶ月分翌年一月十日限リ

第四期一月二月三月三ヶ月分四月十日限リ

備品 翌年度四月十日限リ

第五條 需用品ノ出納ハ總テ証憑書類ニ照シ帳簿ニ登記スヘシ其証憑書類ノ頭部餘白ニハ必ス賬簿

記入簿ノ印ヲ捺捺スヘシ

第六條 需用品支出ニ關スル証憑書類ハ備品ト消耗品トニ區別シ尙ホ其各品中種類ヲ細記シ賬簿記

入ノ順序ニ從ヒ編綴シ置キ第四條報告書ト照合ニ便ナラシムルヘシ

但証憑書類ハ時宜ニ依リ第四條報告書ト同時又ハ臨時ニ知事ニ提出セシムルコトアルヘシ

第七條 需用品所業者ニシテ其需用品ヲ領受スルトキハ其品目數量等ヲ詳記シ之ヲ需用品出納主務

者ニ提出スヘシ

第八條 一旦交付ヲ受ケタル需用品ハ各自互ニ交換又ハ貸借スルヲ得ス

第九條 需用品中消耗品ハ毎月一日十五日(休日ニ當ル)トキハ(順延)兩度ニ交付スヘシ

但臨時必要アルトキハ此限ニアラス

第十條 貯藏ノ需用品ハ倉庫又ハ適宜ノ場所ニ格護シ點檢ニ便ナラシムルヘシ

第十一條 需用品出納主務者ハ各自ニ交付シタル需用品ト雖トモ其取締上ニ關シテハ總テ監督ノ任

アルモノトス

附 則

第十二條 現在ノ需用品ハ明治廿五年四月一日ヨリ需用品出納主務者ノ保管并監督ニ屬ス

第十三條 各部署ハ左ノ各項ニ依リ需用品ノ價格ヲ定ムヘシ

一 新ニ購買シタルモノハ其代價

二 需用品管理規則施行ノ日ニ現在スルモノハ此際相當ノ價格ヲ評定スヘシ

第十四條 本順序ノ施行ハ需用品管理規則施行ノ期日ニ依ル

(五) 衛生恩賜金及病院資本金管理規則

○縣令第二十六號

明治廿五年
三月廿三日

衛生恩賜金及病院資本金管理規則縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通り相定メ明治廿五年四月一日ヨリ施行ス

但本則ニ抵觸スル成規ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第一條 衛生恩賜金及病院資本金ノ利子ハ年々縣立病院費ニ支出ス

第二條 衛生恩賜金及病院資本金ハ公債證書又ハ銀行預金トシテ之ヲ管理ス

第三條 從前貸付ニ係ル病院資本金ハ其償還アルニ從ヒ前條ノ規程ニ依ル

第四條 管内共有儲蓄金管理規則第四條ハ本則ニ之ヲ適用ス

(六) 衛生恩賜金其他金員出入

第十二類 出 納

○縣令第十九號 明治廿五年 三月廿一日

衛生恩賜金利子ヲ本金ニ編入ノ件管内共有貯蓄金ノ内土木基本金支出ノ件監獄工業基本金中菓木代未拂額一時償却ノ件監獄工業基本金ヲ病院資金ニ編入ノ件縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通り相定ム

衛生恩賜金利子ヲ本金ニ編入ノ件
衛生恩賜金利子
金拾貳圓五拾錢
公債証書利子
預ケ金利子

前記金員ハ之ヲ衛生恩賜金ニ編入ス
管内共有貯蓄金ノ内土木基本金支出ノ件
明治廿五年度支出額

監獄工業基本金中菓木代未拂額一時償却ノ件
病院資金ヨリ引繼
タル菓木代未拂額

前記菓木代未拂額ハ明治廿四年度ニ於テ一時ニ之ヲ償還ス
監獄工業基本金剩餘金ヲ病院資金ニ編入ノ件
監獄工業基本金剩餘 (明治廿四年十月一日現在)

前記金員ヲ明治廿四年度ニ於テ病院資金ニ編入ス
監獄工業基本金剩餘 (明治廿四年十月一日現在)

○縣令第十七號 明治廿五年 三月廿一日

監獄工業基本金管理規程縣會ノ議決ヲ經テ左之通り相定ム
第一條 監獄工業基本金ハ從來ノ固定資本ヲ除クノ外金壹方圓ヲ以テ程度トス

前項ノ程度ニ超過セン金額ハ縣會ノ議決ヲ經テ之ヲ處分スヘシ
第二條 監獄工業基本金ノ收支豫算ハ毎年縣會ノ議決ヲ經ヘシ

第三條 監獄工業總基本金ノ受入仕拂勘定ハ毎年縣會ニ報告スヘシ
第四條 素品ノ年度内未消費ニ屬スルモノニシテ時價ニ比シ其價格ヲ減スルモノハ毎年度ノ終リニ於テ其價格ヲ改定スヘシ

第五條 製作品ノ未販賣ニ屬スルモノニシテ時價ニ比シ其價格ヲ増減スルモノハ時々其價格ヲ改定スヘシ
第六條 素品製品ニシテ變質毀損等ノ爲メ不用ニ歸シタルモノハ賣却ノ上其價格ノ減少シタルモノヲ以テ損失トス

(八) 縣稅及備荒儲蓄金會計規則
○達乙第二百十七號 明治廿四年 十月十二日

縣稅及備荒儲蓄金會計規則左ノ通設定明治廿四年十月十六日ヨリ施行ス
但本則ニ抵觸スル從前ノ成規ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一條 總則
縣稅及備荒儲蓄金並其附屬財產ニ關スル會計ハ總テ本則ニ依ル

第二條 一會計年度所屬ノ收支出納ニ關スル事務ハ翌年度六月卅日ヲ限リ完結スヘシ
第三條 收入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度
二 隨時ノ收入ニシテ納付命令ヲ發スルモノハ其命令ニ指定シタル日命令ヲ發セサルモノハ其領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第十二類 出 納
十一

三 借入金、國庫下渡金、國庫補助金及寄付金ノ類ハ其下渡命令書若クハ收入決定書ニ指定シタル日ノ屬スル年度

第四條 支出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 巡查給助、看守給助其他官吏恩給金ノ類ハ其仕拂期日ノ屬スル年度
- 二 俸給、手数料、旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度
- 三 應費、雜費、土木費、土地物件ノ購買若クハ調達費ノ類ニシテ凡契約法ニ依リ仕拂ヲ爲スモノハ其契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
- 四 前掲ノ區分ニ入ラサル費用ハ其仕拂傳票ヲ發シタル日ノ屬スル年度
- 第五條 土木工事、諸物件ノ購買若クハ調達等凡契約法ニ依リ執行スル事件ニシテ年度内完結セサルモノハ翌年度四月卅日ヲ限リ豫算變更年度繰越ノ手續ヲ爲スモノトス

第二款 豫算

第六條 經費主管ノ各課ハ毎年六月卅日ヲ限リ第一號式ニ依リ翌年度經費要求書ヲ編製シ詳細説明書ヲ添付シ豫算編製主務ノ課ニ送付スヘシ

第七條 歳出豫算ノ變更ヲ要スルトキハ其主管ノ課ニ於テ第二號式ニ依リ經費豫算變更要求書ヲ編製シ詳細説明書ヲ添付シ豫算編製主務ノ課ニ送付スヘシ

第八條 經費主管ノ各課ハ第三號式ニ依リ其經費ニ屬スル雜收入、國庫下渡金、國庫補助金、財産收入金、財産賣拂代金及寄付金ノ歳入豫算額ヲ變更セントスルトキハ其主管ノ課ニ於テ第四號式ニ依リ收入見込變更ト全時ニ豫算編製主務ノ課ニ送付スヘシ

第九條 歳出豫算變更ノ場合ニ於テ其所屬雜收入、國庫下渡金、國庫補助金、財産收入金、財産賣拂代金及寄付金ノ歳入豫算額ヲ變更セントスルトキハ其主管ノ課ニ於テ第四號式ニ依リ收入見込變更書ヲ編製シ詳細説明書ヲ添付シ經費豫算變更要求書ト全時ニ豫算編製主務ノ課ニ送付スヘシ

第十條 豫算編製主務ノ課ハ經費要求書及收入見込書若クハ其變更要求書ヲ審査シ地租割、戸數割、營業稅、雜種稅其他ノ收入見込額ヲ定メ翌年度歳入歳出豫算案ハ毎年七月卅一日ヲ限リ歳入歳出豫算變更案ハ其都度編製ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 歳入歳出豫算變更案ハ第五號式ニ依リ編製シ説明書ヲ付スヘシ

第十二條 繼續事業費ヲ要スルトキハ其經費主管ノ課ヨリ各年度支出見込書ヲ豫算編製主務ノ課ニ移シ豫算編製主務ノ課ニ於テ府縣歳入歳出豫算調製式ニ依リ支出方法案編製ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條 夫役現品ノ賦課ヲ要スルトキハ豫算編製主務ノ課ニ於テ府縣歳入歳出豫算調製式ニ依リ賦課方法案編製ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條 府縣稅附屬財産トシテ金員若クハ諸物件ノ寄付アルトキハ其財産ヲ主管スル課ヨリ收入見込書ヲ豫算編製主務ノ課ニ移シ豫算編製主務ノ課ニ於テ收入案編製ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 凡歳入歳出豫算案及其變更案議會ノ議決ヲ經タルトキハ豫算編製主務ノ課ニ於テ其確定ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條 凡歳出豫算及其變更確定シタルトキハ經費主管ノ各課ニ於テ第六號式ニ依リ仕拂豫算書編製ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 仕拂豫算ノ科目ハ歳出豫算科目ノ項ヲ款トシテ分テ項目節トスヘシ

第十八條 仕拂豫算各項ノ區分及其金額ノ配置ハ議會議決ノ目的ニ違テ得ス其各目節ノ區分及其金額ノ配置ハ議會議決ノ趣旨ニ準據スルヲ要ス其準據スルコト能ハサルトキハ經費主管ノ各課ニ於テ事由ヲ具シ決裁ヲ請フヘシ

第十九條 數應解ニ分割シテ仕拂ヲ爲ス經費ニ就テハ各別個ニ仕拂豫算書ヲ編製スヘシ

第十二類 出 納

第二十條 仕拂豫算書ノ變更ヲ要スルトキハ其經費主管ノ課ニ於テ第七號式ニ依リ仕拂豫算變更書ヲ編製シ其變更ノ手續ヲ爲スヘシ

第三款 收入

第二十一條 凡ソ寄付金ハ其經費主管ノ課若シハ財産管理ノ課ヨリ出納主務ノ課ニ收入通知書ヲ發シ出納主務ノ課ニ於テ收入通知書ニ依リ收入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 本廳内務部ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費所屬ノ雜收入財産收入金及財産賣拂代金ハ其經費主管ノ課若シハ財産管理ノ課ヨリ出納主務ノ課ニ收入通知書ヲ發シ出納主務ノ課ニ於テ收入通知書ニ依リ收入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 監獄署及本廳外各廳解ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費所屬ノ雜收入財産收入金及財産賣拂代金并別經濟收入金ハ其經費ノ仕拂ヲ爲ス廳解ニ於テ收入シ一ヶ月毎ニ取纏メ其翌月十日ヲ限リ本廳ニ送納スヘシ但縣立病院ノ收入金ハ本廳ニ送納セス直ニ其經費ニ充用セシム

前項ニ依リ監獄署ヨリ送納スルモノニ就テハ出納主務ノ課ニ於テ直ニ收入ノ手續ヲ爲シ其他ノ各廳解ヨリ送納スルモノニ就テハ其經費主管ノ課ヨリ出納主務ノ課ニ收入通知書ヲ發シ出納主務ノ課ニ於テ收入通知書ニ依リ收入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十四條 監獄署及本廳外各廳解ニ於テハ前條第一項ノ收入ニ就キ收入通知書發付ノ手續ヲ省キ其廳出納主務ニ於テ納付書等ニ依リ直ニ收入ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 收入通知書及收入金送納書ニハ第五十條第二項規定ノ証憑書類ヲ添付スヘシ

第二十六條 第二十一條乃至第二十三條規定以外ノ收入金ハ本廳出納主務ノ課ニ於テ其納付書、下渡命令書、上納書等ニ依リ直ニ收入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十七條 凡收入ノ手續ヲ了シタル收入金ハ直ニ地方税金取扱所ニ預ケ入ルヘシ (明治廿五年二月乙第廿六號以下改正) 但臨時至急ノ仕拂ニ充ツル爲メ縣立病院經費所屬ノ收入ニ就テハ金三拾圓警察部經費金

ニ就テハ金五拾圓警察部經費トシテ交付スル交付金ニ就テハ一警察署毎ニ金三拾圓ヲ限リ現金ヲ以テ管理スルコトヲ得

第二十八條 當該年度所屬ノ收入ハ監獄署及本廳外各廳解ニ在テハ翌年度五月廿日本廳ニ在テハ全三十一日ヲ限リ收入ノ手續ヲ了スヘシ

第四款 支出

第二十九條 監獄署經費及其建築修繕費ハ監獄署ニ郡役所經費ハ各郡役所ニ警察署經費ハ各警察署ニ尋常師範學校經費及尋常師範學校附屬小學校經費ハ尋常師範學校ニ尋常中學校經費ハ尋常中學校ニ其仕拂豫算ヲ以テ仕拂ノ事務ヲ取扱ハシム

縣立病院經費ハ山梨縣病院ニ仕拂豫算額ニ基キ其實收入金以内ヲ以テ仕拂ノ事務ヲ取扱ハシム前各項規定以外ノ經費ハ凡テ内務部ニ其仕拂豫算ヲ以テ仕拂ノ事務ヲ取扱ハシム

第三十條 監獄署及本廳外各廳解ハ其仕拂ヲ爲ス經費ノ仕拂豫算額ニ基キ毎月一回金額ヲ定メ其交付ヲ本廳ニ請求スヘシ

第三十一條 前條監獄署ノ請求ニ就テハ出納主務ノ課ニ於テ直ニ交付ノ手續ヲ爲シ其他各廳解ノ請求ニ就テハ其經費主管ノ課ヨリ出納主務ノ課ニ交付通知書ヲ發シ出納主務ノ課ニ於テ交付通知書ニ依リ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十二條 縣立病院經費ニ就テハ第三十條及第三十一條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第三十三條 凡支出ニ於テ假拂若シハ繰替拂ヲ要スルトキハ其經費ノ仕拂ヲ爲ス部署廳解ニ於テ事由及金額ヲ具シ豫メ決裁ヲ請フヘシ

第三十四條 假拂及繰替拂ノ金額ハ監獄署及本廳外各廳解ニ在テハ翌年度五月廿日本廳ニ在テハ全三十一日ヲ限リ本廳若シハ戻入ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十五條 凡支出ハ仕拂豫算ノ科目以外ニ涉ルヲ得ス若シバ得サル事由アリ既定ノ科目外ニ涉

第十二類 出納

支出ヲ要スルトキハ左ノ手續ヲ了スヘシ

一 郡役所警察署其他本廳外各廳解ニ於テ本條ノ場合ニ適當ナルトキハ其廳解ヨリ事由及金額ヲ具シ本廳ニ申出ヘシ

二 新設ヲ要スル科目款ニ係ルトキハ第七條第九條及第十條ニ依リ歲出豫算ヲ變更スヘシ

三 新設ヲ要スル科目項ニ係ルトキハ其經費主管ノ課ヨリ項名及金額ヲ具シタル支拂豫算變更見込書ヲ豫算編製主務ノ課ニ移シ豫算編製主務ノ課ニ於テ仕拂豫算變更案編製ノ手續ヲ爲スヘシ

四 支拂豫算變更案縣參事會ノ議決ヲ經タルトキハ豫算編製主務ノ課ヨリ之ヲ經費主管ノ課ニ移シ經費主管ノ課ニ於テ仕拂豫算變更ノ手續ヲ爲スヘシ

五 新設ヲ要スル科目目以下ニ係ルトキハ其經費主管ノ課ニ於テ直ニ仕拂豫算變更ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十六條 仕拂豫算ノ科目中目以下ハ其經費ノ仕拂ヲ爲ス廳限リ流用スルコトヲ得其項以上ノ流用ヲ要スルトキハ左ノ手續ヲ了スヘシ

一 郡役所、警察署其他本廳外各廳解ニ於テハ其事由及金額ヲ具シ本廳ニ申出ヘシ

二 經費主管ノ各課ニ於テハ其事由及金額ヲ具シタル流用見込書ヲ豫算編製主務ノ課ニ移シ豫算編製主務ノ課ニ於テ豫算流用案編製ノ手續ヲ爲スヘシ

三 豫算流用案縣參事會ノ議決ヲ經タルトキハ豫算編製主務ノ課ヨリ之ヲ經費主管ノ課ニ移付スヘシ

四 數廳解ニ分割シテ支拂ヲ爲ス經費ニ就テハ各廳解ノ仕拂豫算額ヲ合算シタル上ニ於テ項以上ノ流用ヲ要スルトキニ限リ前第二第三ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十七條 本廳内務部ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費及其所管財産ノ支出ハ其經費主管ノ課若クハ財産管理ノ課ヨリ出納主務ノ課ニ仕拂通知書ヲ發シ出納主務ノ課ニ於テ仕拂通知書ニ依リ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十八條 監獄署及本廳外各廳解ニ於テハ其仕拂ヲ爲ス經費ノ支出ニ就キ前條仕拂通知書發付ノ手續ヲ省キ其應出納主務ニ於テ債主ノ請求書若クハ領收証書ニ依リ直ニ仕拂ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 仕拂通知書及交付通知書ニハ第五十條第二項規定ノ証憑書類ヲ添付スヘシ

第四十條 土木工事費、諸物件ノ購買若クハ調達費等凡契約法ニ依リ仕拂ヲ爲ス經費ニシテ其事件完結前契約金一部分ノ仕拂ヲ要スルトキハ其仕拂ヲ爲ス部署廳解ニ於テ金額及事由ヲ具シ決裁ヲ請フヘシ

前項ノ支出ハ其事件已済部分ニ對スル價額二分ノ一ヲ超過スルヲ得ズ

第四十一條 監獄署及本廳外各廳解ハ第八號式ニ依リ一ヶ月毎ニ其仕拂ヲ爲シタル經費ノ仕拂計表ヲ編製シ第五十條第二項規定ノ証憑書類ヲ添付シ翌月十日限リ本廳ニ送付スヘシ

前項ニ依リ監獄署ヨリ送付スルモノニ就テハ出納主務ノ課ニ於テ直ニ本拂ノ手續ヲ爲シ其他各廳解ヨリ送納スルモノニ就テハ其經費主管ノ課ヨリ出納主務ノ課ニ仕拂通知書ヲ發シ出納主務ノ課ニ於テ仕拂通知書ニ依リ本拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十二條 當該年度所屬ノ支出ハ監獄署及本廳外各廳解ニ在テハ翌年度五月廿日本廳ニ在テハ全三十一日ヲ限リ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第五款 收支出納主務及傳票

第四十三條 經費ヲ主管シ若シハ財産ヲ管理スル各課并本廳外各廳解ハ收支主務員ヲ置キ收支通知書發付ノ事務ヲ擔任セシムヘシ但監獄署及本廳外各廳解ニ於テ收支通知書發付ノ手續ヲ省キタル場合ハ此限ニ在ラス

第四十四條 本廳出納主務ノ課及監獄署並本廳外各廳解ハ出納主務員ヲ置キ其所屬出納ノ事務ヲ擔

第十二類 出 納

十七

任セシムヘシ

十八

第四十五條 收支主務員ト出納主務員トハ互ニ相兼スルヲ得ス但監獄署及本廳外各廳解ニ於テハ此限ニ在ラス

第四十六條 凡收出ハ傳票ニ依リ決定スヘシ

第四十七條 收入傳票ハ納人、收入スヘキ金額、收入科目、年度及番號ヲ記載スヘシ但地租割、營業稅、雜種稅及戸數割ノ收入ニシテ其年度及科目全一ナルトキハ數人ノ額ヲ併算シ其內譯ニ於テ各納人ノ氏名及金額ヲ示スコトヲ得

第四十八條 仕拂傳票ハ債主若シハ其代理人ノ氏名仕拂ヘキ金額、支出科目、年度及番號ヲ記載スヘシ但俸給其他諸給與ノ類ニシテ年度及支出科目ノ全一ナルモノハ債主數人ノ總代ニ對スル仕拂金額ヲ併算シ別ニ各債主ノ金額氏名ヲ列記シタル連名請求書若シハ領收証書ヲ添付スルコトヲ得

第四十九條 傳票ハ收入豫算若シハ仕拂豫算ノ一科目毎ニ之ヲ發スヘシ但財産ノ收出及假拂繰替拂並第三十一條ニ依リ交付金ノ交付ニ就テハ此限ニ在ラス

第五十條 傳票ハ收入若シハ仕拂ノ正當ナルヲ証スヘキ証憑書類ヲ添付スヘシ

証憑書類ノ概目左ノ如シ

一 國庫金補助若シハ下渡命令書

二 土地物件寄付願書及許可命令書

三 土地物件拂下ニ係ル關係書

四 郡市村長ノ税金納付書

五 支拂ニ對スル債主ノ請求書但傳票ヲ發スル前正當領收証書ヲ提出シタルトキハ之ヲ其請求書ニ代用スルコトヲ得

第五十一條 前條証憑書類中第一第二ハ其原本第三以下ハ其原書ヲ添付スヘシ

前項ノ規定ハ第廿五條第卅九條及第四十一條ニモ亦適用ス

第五十二條 傳票ノ決定ハ一般回議案決定ノ順序ニ依ル

第五十三條 傳票決定シタルトキハ本廳出納主務ノ課及各廳解ノ出納主務員ハ直ニ其關係帳簿ノ登記ヲ了シ收入金ハ地方税金取扱所ニ預入レ仕拂金ハ正當領收証書ヲ徴シタル上其引出シ切符ヲ債主ニ交付シ全時ニ之ヲ地方税金取扱所ニ通知スヘシ

第二十七條但書ニ依リ管理メタル現金ノ仕拂ニ就テハ前項末文ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第六款 決算

第五十四條 經費主管ノ各課ハ毎年六月十日ヲ限リ第九號式ニ依リ前年度仕拂報告書ヲ編製シ詳細說明書ヲ添付シ決算書編製主務ノ課ニ送付スヘシ

第五十五條 本廳出納主務ノ課ハ毎年六月十日限リ第十號式ニ依リ前年度收入報告書ヲ編製シ詳細說明書ヲ添付シ決算書編製主務ノ課ニ送付スヘシ

第五十六條 決算書編製主務ノ課ハ仕拂報告書及收入報告書ニ就キ審査ヲ遂ケ毎年六月卅日ヲ限リ前年度歳入歳出決算書ヲ編製スヘシ

縣歳入歳出決算書ハ第十一號式ニ備荒儲蓄金歳入歳出決算書ハ備荒儲蓄金精算書式ニ據リ尙說明書ヲ付スヘシ

第五十七條 財産管理ノ各課ハ毎年六月十日限リ第十二號式ニ依リ調製シタル前年度財産増減調書ヲ決算書編製主務ノ課ニ送付シ決算書編製主務ノ課ハ毎年六月三十日ヲ限リ縣會ニ提出スヘキ縣有財産表ヲ編製スヘシ

第五十八條 第五十四條及第五十七條ニ依リ編製スル前年度仕拂報告書若シハ財産増減報告書ハ決算書編製主務ノ課ニ送付シ前出納主務課ノ檢閲ヲ經ヘシ

第五十九條 監獄署及本廳外各廳解ハ其經費ノ仕拂了シタル後直ニ其仕拂殘金ヲ本廳ニ返納スヘシ

第十二類 出納

十九

前項返納金ヲ本廳ニ受入ル、順序ハ第二十三條第二項ニ準ス

第七款 契約

第六十條 土木工事、諸物件ノ調達、購買及賣却ハ、隨意契約ノ方法ニ依リ執行スヘシ
第六十一條 契約法ニ依リ執行スヘキ事件中左ノ規定ニ該當スルモノハ、隨意契約ノ方法ニ其他ハ凡テ競争契約ノ方法ニ依ル

- 一 土木工事、諸物件ノ調達、購買ニシテ經費見積金額拾圓ニ滿テス諸物件ノ賣却ニシテ見積代金競争契約ノ費用ヲ償フ能ハサルモノ
 - 二 土木工事及諸物件ノ調達ニシテ特種ノ技術ヲ要シ諸物件ノ購買ニシテ特許專賣ニ係リ若クハ廣シ供給者ヲ求ムル能ハサルモノ
 - 三 土木工事ニシテ其一半以上市町村若クハ其一部支辨ノ事業ト聯帶シ又ハ市町村若クハ其一部ノ利害ト特ニ密接ノ關係アリテ市町村若クハ其一部ノ請負ト爲スヲ要スルモノ
 - 四 土木工事諸物件ノ調達ニシテ監獄囚徒ヲ直接ニ傭役シ諸物件ノ購買ニシテ監獄囚徒製作品ヲ直接ニ供用スルモノ
 - 五 縣内ニ於テ請負人若クハ拂受人ヲ得ルノ見込ナキモノ
 - 六 急施ヲ要シ競争ニ附スル暇ナキモノ七 競争ニ附シテ請負人若クハ拂受人ヲ得サルモノ
- 第六十二條 凡契約ニ就テハ契約者ヲシテ其事項ノ經費十分ノ一以上ノ契約保証金ヲ納メシム但隨意ノ契約ニシテ締約ノ即時其義務ヲ完了スル事項及前條第一第四ノ事項ニ就テハ保証金ヲ要セス
第六十三條 凡競争ニ就テハ競争者ヲシテ其事項ノ經費若クハ代價ノ見積金額二十分ノ一以上ノ競争保証金ヲ納メシム
第六十四條 契約保証金ハ契約者若クハ契約保証人違約シタルトキ競争保証金ハ競争ノ落札人締約

セサルトキハ其所屬經濟ノ所得トシテ之ヲ押收ス但締約セス若クハ違約シタル事由任意ニ出テセル場合ニ限り特ニ減免スルコトヲ得

本廳外各廳縣ニ於テ前項但書ノ處分ヲ爲サントスルトキハ其事由ヲ具シ決裁ヲ請フヘシ

第六十五條 凡競争契約ハ入札ノ方法ニ依リ締結スヘシ
第六十六條 入札ハ左ノ規定ニ依リ執行ス

- 一 入札ハ便宜ノ手續ニ依リ入札期日ヨリ前少クモ三日間左ノ要件ヲ廣告スヘシ
 - 競争ニ付スル事項
 - 契約書案ヲ開示スル場所
 - 開札ノ場所日時
 - 競争保証金額
- 二 契約書案ヲ開示スル場所ニハ入札ニ記載スヘキ要項及其價額計算ノ方法其他入札人ノ心得ヘキ一切ノ事項ヲ揭示スヘシ
- 三 開札ハ廣告ニ示シタル場所日時ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ
- 四 土木工事及諸物件ノ調達購買ニ關スル入札ハ最低價ヲ以テ土地諸物件ノ賣却ニ關スル入札ハ最高價ヲ以テ落札トスニ票以上落札スヘキ價額ノ入札アルトキハ其入札人ヲシテ即時再入札セシメ尙其價額同一ナルトキハ抽籤ヲ以テ落札ヲ定ム
- 五 落札スヘキ入札ノ價額不相當ト認ムルトキハ入札全体ヲ取消シ更ニ廣告シ又ハ時宜ニ依リ直ニ在場ノ入札人ヲシテ再入札セシムヘシ
- 六 落札人契約ヲ結ハサルトキ若クハ有効ノ入札三票以上ニ至ラサルトキハ之ヲ取消シ更ニ廣告シテ再入札セシムヘシ
- 七 入札人又ハ其代理人開札場所ニ在サルモノ、入札及入札ニ記載スヘキ要項ヲ記載セス又ハ總金

第十二類 出納

額ニ違算アル入札ハ無効トス
第六十七條 落札人ノ競争保証金ハ契約ヲ結ビタル後其他ノ競争保証金ハ落札人定リタル後直ニ返付スヘシ

第六十八條 隨意契約ハ左ノ規定ニ依リ締結スヘシ
一 第六十一條第四ニ規定シタル事項及凡隨意ノ契約ニシテ締約ノ即時其義務ヲ完了スル事項ニ就テハ請負若シハ拂受見積書ノ提出ヲ要セス直ニ契約希望人ニ對シ契約スヘシ

二 第六十一條第一及第七ニ規定シタル事項ニ就テハ締約ノ即時其義務ヲ完了スルモノヲ除クノ外二人以上ノ契約希望人ヲ選定シ各自請負若シハ拂受見積書ヲ提出セシメ土木工事及諸物件ノ調達購買ハ其最低價ノモノニ諸物件ノ賣却ハ其最高價ノモノニ對シ契約スヘシ但見積金額不相當ト認ムルトキハ契約セサルコトアルヘシ

三 右ノ手續ヲ了シ請負人若シハ拂受人ヲ得サル事項及隨意ノ契約ニシテ前第一第二規定以外ノ事項ニ就テハ契約希望人ヲ特選シ請負若シハ拂受見積書ヲ提出セシメ契約スヘシ
第六十九條 契約保証金ハ契約ノ事項ヲ完了シ解約シタル後直ニ之ヲ返付スヘシ

第七十條 契約ニ關シテ二人以上ノ契約保証人ヲ立テシム但市町村若シハ其一部ト締結スル契約及第六十八條第一ニ規定シタル事項ノ契約ニ就テハ保証人ヲ要セス契約保証人ハ契約本人事故アルトキ代テ一切ノ責ニ任セシム

第七十一條 土木工事、諸物件ノ調達、購買ニ關スル事項ニ就テハ事件完結前其已済部分ニ對スル價額二分ノ一以上ノ契約金額ヲ下渡シ若シハ其工事擔保期限前諸物件受渡期限前契約金全額ヲ下渡スノ契約ヲ爲スヲ得ス

第七十二條 契約書ニ掲記スヘキ要件左ノ如シ
一 契約セントスル事項ノ細密ナル仕様書若シハ明細仕譯書

二 工事落成期限若シハ諸物件受渡期限
三 契約金全額下渡期限
四 契約保証金額
五 工事擔保期限内ノ損失負擔方
六 契約違反ノトキ契約保証金ノ處分方
七 契約保証人ノ責任
八 前掲ノ外契約セントスル事項ニ就キ特ニ必要ナル條件

第七十三條 第六十八條第一ニ規定シタル事項ノ契約ニ就テハ左ノ書類ノ一ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得
一 請負人若シハ拂受人ノ署名捺印シタル承諾書
二 請負人ノ契約金額收証書

第八款 帳簿
第七十四條 本廳出納主務ノ課及監獄署并本廳外各廳屬ハ一年度毎ニ日記簿、原簿、現金受拂簿、内譯簿及收入簿ヲ備ヘ傳票ニ依リ決定シタル收入若シハ仕拂ノ金額ヲ登記スヘシ(明治廿五年三月ヲ以テ)但本廳外各廳屬ニ於テハ實際ノ都合ニ依リ本條ノ帳簿種類ニ就キ取捨スルコトヲ得

第七十五條 經費主管ノ各課ハ豫算差引簿及雜入簿ヲ備ヘ本廳外各廳屬ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費ニ就テハ一月毎ニ其收入若シハ仕拂金額ヲ其他ノ經費ニ就テハ收入通知書若シハ仕拂通知書ノ金額ヲ登記スヘシ

第七十六條 財産管理ノ課ハ財産臺帳ヲ備ヘ收支通知書ノ金額ヲ登記シ常ニ其増減ヲ明ニスヘシ
第九款 附則

第七十七條 左ノ事項ハ別ニ之ヲ定ム
第十二類 出 納

第十二類 出 納

第十二類 出 納

第十二類 出 納

一 諸物件ノ收取扱順序
 一 帳簿式及其整理順序
 一 現金預入帳簿、現金引出切符式及其受渡順序
 第七十八條 寄附金ハ經費ノ任拂ヲ爲ス本廳外各廳解ニ臨時委任シテ收入セシムルコトアルヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ其收入順序等各廳解ノ適宜ニ任ス
 第七十九條 監獄工業基金中因徒作業資金ノ收出運用ハ別段ノ規定ニ依ル
 第八十條 收支主務員及出納主務員ヲ置キタルトキハ其所屬ノ課及廳解ヨリ其官氏名ヲ會計検査主
 務ノ課ニ通知スヘシ其變更シタルトキ亦全シ

第壹號式

明治、年度警察費經費要求書

(○印及圖位線ハ朱書)

科 目	本年度		備 考
	要求額	前年度	
	増	減	
第一款 俸給及諸給			
第一項 巡查月給			
第一目 巡查月給			
第二目 教習巡查月給			
第二項 雇員月給			
第一目 雇員月給			
第二目 武技教師月給			
第三項 何々			
第一節 何々			
第二節 何々			
第二款 何々			
第一項 何々			
第一目 何々			
合計			

第十二類 出納

廿五

科 目	變 更 額	既 定 額	比 較		備 考
			增	減	
第一項 俸給及諸給					
第一目 巡查月給					
第二目 巡查月給					
第三項 何々					
第一節 何々					
第二節 何々					
第一項 何々					
第二項 何々					
第一目 何々					
第二目 何々					
第三項 何々					
第一目 何々					
第二目 何々					
第三項 何々					
合 計					

豫算書左

明治、年度警察費經費變更要求豫算書

(○印及圓位線(未書))

第貳號式

明治、年度警察費經費變更要求豫算書

(○印及圓位線(未書))

科 目	變 更 額	既 定 額	比 較		備 考
			增	減	
第一項 俸給及諸給					
第一目 巡查月給					
第二目 巡查月給					
第三項 何々					
第一節 何々					
第二節 何々					
第一項 何々					
第二項 何々					
第一目 何々					
第二目 何々					
第三項 何々					
第一目 何々					
第二目 何々					
第三項 何々					
合 計					

第十二類 出 納

廿六

第一項 警察費下渡金	第一節 何々	第一目 何々	第二節 何々	第二目 何々	第三節 何々	第三目 何々	第四節 何々	第五節 何々	第六節 何々	第七節 何々	第八節 何々	第九節 何々	第十節 何々	第十一節 何々	第十二節 何々	第十三節 何々	第十四節 何々	第十五節 何々	第十六節 何々	第十七節 何々	第十八節 何々	第十九節 何々	第二十節 何々	第二十一節 何々	第二十二節 何々	第二十三節 何々	第二十四節 何々	第二十五節 何々	第二十六節 何々	第二十七節 何々	第二十八節 何々	第二十九節 何々	第三十節 何々	第三十一節 何々	第三十二節 何々	第三十三節 何々	第三十四節 何々	第三十五節 何々	第三十六節 何々	第三十七節 何々	第三十八節 何々	第三十九節 何々	第四十節 何々	第四十一節 何々	第四十二節 何々	第四十三節 何々	第四十四節 何々	第四十五節 何々	第四十六節 何々	第四十七節 何々	第四十八節 何々	第四十九節 何々	第五十節 何々	第五十一節 何々	第五十二節 何々	第五十三節 何々	第五十四節 何々	第五十五節 何々	第五十六節 何々	第五十七節 何々	第五十八節 何々	第五十九節 何々	第六十節 何々	第六十一節 何々	第六十二節 何々	第六十三節 何々	第六十四節 何々	第六十五節 何々	第六十六節 何々	第六十七節 何々	第六十八節 何々	第六十九節 何々	第七十節 何々	第七十一節 何々	第七十二節 何々	第七十三節 何々	第七十四節 何々	第七十五節 何々	第七十六節 何々	第七十七節 何々	第七十八節 何々	第七十九節 何々	第八十節 何々	第八十一節 何々	第八十二節 何々	第八十三節 何々	第八十四節 何々	第八十五節 何々	第八十六節 何々	第八十七節 何々	第八十八節 何々	第八十九節 何々	第九十節 何々	第九十一節 何々	第九十二節 何々	第九十三節 何々	第九十四節 何々	第九十五節 何々	第九十六節 何々	第九十七節 何々	第九十八節 何々	第九十九節 何々	第一百節 何々
------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------

第三號五

(○印及圓位線、朱書)

第四號式

明治、年度收入見込書變更書

(○印及圓位線、朱書)

科 目	收入額	變更額	既定額	比較		備考
				増	減	
第一款 財産收入						
第一項 不動産收入						
第一目 地所貸下料						
第二目 家屋貸下料						
第三目 下草及產物拂下代						
第一節 何々						
第二節 何々						
第二項 動産收入						
第一目 公債証書利子						
第二目 株券利子						
第三目 何々						
第二款 國庫下渡金						
第一項 警察費下渡金						
第一目 警察費連帶支辨金						
第二目 何々						
合計						

第十二類 出納

廿八

第一項 巡查員給			
第二項 剩餘及諸給			
目	出	入	餘
即前、年度警察費仕拂豫算變更書			

(圓位線、朱書)

第七號式

明治、年度警察費仕拂豫算變更書

(○印及圓位線、朱書)

科 目	變更額	既定額	比較		備考
			增	減	
第一款 俸給及諸給					
第一項 巡查月給					
第一目 巡查月給					
第二目 教習巡查月給					
第二項 雇員給					
第一目 雇員月給					
第二目 武技教師月給					
第三項 何々					
第一目 何々					
第二目 何々					
第一節 何々					
第二節 何々					
第二款 何々					
第一項 何々					
第二目 何々					
合計					

第十二類 出納

卅一

第一目 巡查員餘									
第二目 巡查員餘									
第一項 剩餘及儲餘									
目	變更	新	輪	出	備	考			
目	變更	新	輪	出	備	考			
目	變更	新	輪	出	備	考			
目	變更	新	輪	出	備	考			
目	變更	新	輪	出	備	考			
目	變更	新	輪	出	備	考			
目	變更	新	輪	出	備	考			
目	變更	新	輪	出	備	考			

第八號式

明治、年度何月分、警察署(其他廳名)經費支拂計表

(○印及圓位線、朱書)

科	目	支拂額	假拂額	備	考
第一款 俸給及諸給					
第一項 巡查月給					
第一目 巡查月給					
第二目 教習巡查月給					
第二項 雇員給					
第一目 雇員月給					
第二目 武技教師月給					
第三項 何々					
第一節 何々					
第二節 何々					
第二款 何々					
第一項 何々					
第一目 何々					
第二目 何々					
合計					

第十二類 出納

卅二

科目	預算額	實際額	比較		備考
			出	入	
第一目 巡查員俸					
第二目 巡查員俸					
第三目 警備員俸					
第四目 警備員俸					
第五目 警備員俸					
第六目 警備員俸					
第七目 警備員俸					
第八目 警備員俸					
第九目 警備員俸					
第十目 警備員俸					
第十一目 警備員俸					
第十二目 警備員俸					
第十三目 警備員俸					
第十四目 警備員俸					
第十五目 警備員俸					
第十六目 警備員俸					
第十七目 警備員俸					
第十八目 警備員俸					
第十九目 警備員俸					
第二十目 警備員俸					
第二十一目 警備員俸					
第二十二目 警備員俸					
第二十三目 警備員俸					
第二十四目 警備員俸					
第二十五目 警備員俸					
第二十六目 警備員俸					
第二十七目 警備員俸					
第二十八目 警備員俸					
第二十九目 警備員俸					
第三十目 警備員俸					
第三十一目 警備員俸					
第三十二目 警備員俸					
第三十三目 警備員俸					
第三十四目 警備員俸					
第三十五目 警備員俸					
第三十六目 警備員俸					
第三十七目 警備員俸					
第三十八目 警備員俸					
第三十九目 警備員俸					
第四十目 警備員俸					
第四十一目 警備員俸					
第四十二目 警備員俸					
第四十三目 警備員俸					
第四十四目 警備員俸					
第四十五目 警備員俸					
第四十六目 警備員俸					
第四十七目 警備員俸					
第四十八目 警備員俸					
第四十九目 警備員俸					
第五十目 警備員俸					
第五十一目 警備員俸					
第五十二目 警備員俸					
第五十三目 警備員俸					
第五十四目 警備員俸					
第五十五目 警備員俸					
第五十六目 警備員俸					
第五十七目 警備員俸					
第五十八目 警備員俸					
第五十九目 警備員俸					
第六十目 警備員俸					
第六十一目 警備員俸					
第六十二目 警備員俸					
第六十三目 警備員俸					
第六十四目 警備員俸					
第六十五目 警備員俸					
第六十六目 警備員俸					
第六十七目 警備員俸					
第六十八目 警備員俸					
第六十九目 警備員俸					
第七十目 警備員俸					
第七十一目 警備員俸					
第七十二目 警備員俸					
第七十三目 警備員俸					
第七十四目 警備員俸					
第七十五目 警備員俸					
第七十六目 警備員俸					
第七十七目 警備員俸					
第七十八目 警備員俸					
第七十九目 警備員俸					
第八十目 警備員俸					
第八十一目 警備員俸					
第八十二目 警備員俸					
第八十三目 警備員俸					
第八十四目 警備員俸					
第八十五目 警備員俸					
第八十六目 警備員俸					
第八十七目 警備員俸					
第八十八目 警備員俸					
第八十九目 警備員俸					
第九十目 警備員俸					
第九十一目 警備員俸					
第九十二目 警備員俸					
第九十三目 警備員俸					
第九十四目 警備員俸					
第九十五目 警備員俸					
第九十六目 警備員俸					
第九十七目 警備員俸					
第九十八目 警備員俸					
第九十九目 警備員俸					
第一百目 警備員俸					

第十號式

(○印及圓位線、朱書)

明治、年度收入報告書

(○印及圓位線、朱書)

科目	精算額	預算額	比較		備考
			増	減	
第一款 地租					
第二款 營業稅					
第三款 何々					
第四款 何々					
第五款 何々					
第六款 何々					
第七款 何々					
第八款 何々					
第九款 何々					
第十款 何々					
第十一款 何々					
第十二款 何々					
第十三款 何々					
第十四款 何々					
第十五款 何々					
第十六款 何々					
第十七款 何々					
第十八款 何々					
第十九款 何々					
第二十款 何々					
第二十一款 何々					
第二十二款 何々					
第二十三款 何々					
第二十四款 何々					
第二十五款 何々					
第二十六款 何々					
第二十七款 何々					
第二十八款 何々					
第二十九款 何々					
第三十款 何々					
第三十一款 何々					
第三十二款 何々					
第三十三款 何々					
第三十四款 何々					
第三十五款 何々					
第三十六款 何々					
第三十七款 何々					
第三十八款 何々					
第三十九款 何々					
第四十款 何々					
第四十一款 何々					
第四十二款 何々					
第四十三款 何々					
第四十四款 何々					
第四十五款 何々					
第四十六款 何々					
第四十七款 何々					
第四十八款 何々					
第四十九款 何々					
第五十款 何々					
第五十一款 何々					
第五十二款 何々					
第五十三款 何々					
第五十四款 何々					
第五十五款 何々					
第五十六款 何々					
第五十七款 何々					
第五十八款 何々					
第五十九款 何々					
第六十款 何々					
第六十一款 何々					
第六十二款 何々					
第六十三款 何々					
第六十四款 何々					
第六十五款 何々					
第六十六款 何々					
第六十七款 何々					
第六十八款 何々					
第六十九款 何々					
第七十款 何々					
第七十一款 何々					
第七十二款 何々					
第七十三款 何々					
第七十四款 何々					
第七十五款 何々					
第七十六款 何々					
第七十七款 何々					
第七十八款 何々					
第七十九款 何々					
第八十款 何々					
第八十一款 何々					
第八十二款 何々					
第八十三款 何々					
第八十四款 何々					
第八十五款 何々					
第八十六款 何々					
第八十七款 何々					
第八十八款 何々					
第八十九款 何々					
第九十款 何々					
第九十一款 何々					
第九十二款 何々					
第九十三款 何々					
第九十四款 何々					
第九十五款 何々					
第九十六款 何々					
第九十七款 何々					
第九十八款 何々					
第九十九款 何々					
第一百款 何々					
合計					

第十二類 出納

卅四

第一頁 商業 貸									
第二頁 營業 貸									
第三頁 賦 賦 賦 賦									
第四頁 賦 賦 賦 賦									
第五頁 常備 常備 常備 常備									
第六頁 常備 常備 常備 常備									
第七頁 常備 常備 常備 常備									
第八頁 常備 常備 常備 常備									
第九頁 常備 常備 常備 常備									
第十頁 常備 常備 常備 常備									

(○印又同並録(米書))

明治、年度縣有財產增減表

種 目	前年度		現年度		前年度末現在ニ對シテ
	收 入	支 出	收 入	支 出	
管內共有儲蓄金					
學 資 金					
貸 付 金					
預 金					
土 木 資 金					
貸 付 金					
銀行預金					
勸業授業資本金					
貸 付 金					
病院資本金					
貸 付 金					
何 々					
合 計					

第十二類 出納

卅六

但師範學校中學校各警察署縣立病院ハ當分經費内譯簿現金受拂簿ノ二帳ヲ備ヘ其經費内譯簿ハ

第二 前項規定帳簿ノ外各廳ノ便宜ニヨリ補助簿ヲ備フヘシ

第三 帳簿ノ登記ハ本廳内務部第四課ハ内務部長監獄署及警察署ハ署長各郡役所ハ郡長師範學校中學校ハ校長縣立病院ハ院長及其以下該金任拂事務ニ従事スル者ノ認印ヲ經タル決議報告書等ノ隨憑書類アルニアラサレハ之ヲ登記スルコトヲ得サルモノトス

第四 帳簿ニ金員ヲ書損スルモ漫ニ削除塗抹ヲ許サス又脱落アルモ恣ニ補綴糊貼ヲ許サス必ス書損脱落スル所ノ正中ニ二線ヲ横書シテ之ヲ消抹シ正字ヲ其上ニ記入スルヲ以テ一般ノ正誤トス

第五 帳簿ニ金員ヲ記入スル後ヲ決議報告等ノ書類ニ誤認アリシヲ發見シタリトモ輒シ記入ノ金員ヲ訂正スルヲ許サス必ラス各主任ヨリ其事由ヲ分疏証明スルヲ待テ然ル後正誤スヘシ

第六 現金受拂簿ノ殘金ハ必ラス銀行預リ帳又ハ在高報告書ノ金額ト突合セ其符合ヲ確認スルヲ要スルモノトス

第七 帳簿ノ書式ハ別冊定ムル所ニ據ル

但収入簿ハ各廳限リ適宜之レヲ定ムヘシ

第八 本順序ハ明治廿五年ユリ施行ス

(十) 縣稅徵稅室帳徵稅元帳式及整理順序(第十五類諸稅ノ條ニ載セリ就テ看ルヘシ)

(帳簿式畧ス)

第十三類 警察

(一) 紙幣類似ノ印刷物製造販賣等禁止

○縣令第四十一號 明治廿五年六月十三日

紙幣類似ノ印刷物ヲ製造販賣授受又ハ所持スルコトヲ禁ス違フ者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●第十四類 農工商

(一) 鑛業條例實施ニ付更ニ水晶借區試掘ノ願出方

○告示第四十八號

明治廿五年五月六日

本年六月一日ヨリ鑛業條例實施ニ就テハ現在許可ヲ得タル水晶借區試掘ハ同日限り消滅スルヲ以テ新ニ掘採業ヲ營マント欲スルモノハ御料地ニ在リテハ御料局静岡支廳へ其他ノ官有地ニ在リテハ縣廳へ願出へ

(二) 砂鑛採取行業明細表調製差出方

○訓令第二十號

明治廿五年五月廿三日

郡 役 所
市 役 所
村 役 場

砂鑛採取行業明細表ハ從前ノ通り明治十三年工部省第六號布達雛形ニ照準調製セシメ翌年一月三十一日限り取纏メ差出スへ

但一箇年一表ニ調製セシムへ

○訓令第貳拾貳號

明治廿五年五月二十日

郡 役 所
市 役 場
村 役 場

採掘特許者ニアラスンテ鑛物製煉業ニ従事スルモノアルトキハ左ノ二項ニ準據スヘシ
一 新規從事ノ場合ニ於テハ製煉場ノ位置製煉人ノ族籍姓名ヲ其都府出サセ之ヲ縣廳ニ報告ス
一 製煉人ヲシテ左ノ雛形ニ依リ前一年ノ工程ヲ製煉行業明細表ニ調製セシメ翌年一月三十一日限り取纏メ差出スヘシ

第十四類 農工商

●第十五類 租 稅

(一) 地租條例及全取扱方心得中へ追加

○縣令第四十三號

明治廿五年
六月廿二日

明治廿三年縣令第三號地租條例及地租條例取扱方心得第十三號書式中内荒地起返ノ例野取圍ノ前ニ
左ノ一項ノ朱書ヲ加フ

合反別何程

外反別何程

畦畔

此地價金何程

此地租金何程

(二) 戸主ノ所得ト家族ノ所得ト區分届出方

○縣令第三十七號

明治廿五年
四月四日

所得稅第一條但書ニ依リ同居ノ家族ニ屬スル所得ヲ合算スル場合ニ於テハ其届書ニ戸主ノ所得ト家
族ノ所得トヲ區分スベシ

(參看) 所得稅法(明治廿年三月)抄錄

第一條 凡ソ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此稅法ニ依
リテ所得稅ヲ納ムベシ

但同居ノ家族ニ屬スルモノハ總テ戸主ノ所得ニ合算スルモノトス

(三) 縣稅賦課規則中刪正

○縣令第二十八號

明治廿五年
三月廿三日

明治廿四年縣令第七十九號縣稅賦課規則中刪正、件急施ヲ要スルヲ以テ縣參事會ノ議決ヲ經テ左ノ
通り相定ム

第十五類 租 稅

明治廿四年縣令第七十九號縣稅賦課規則中左ノ通刪正ス

第三十三條 每年三月三十一日ヲ四月三十日ト改ム

第三十六條ヲ刪除シ第三十七條以下順次繰上ク

(四) 縣稅賦課規則取扱順序

○訓令第九號 明治廿五年 三月廿八日

郡 役 所
警 察 署
間 稅 分 署
市 役 所
村 役 場

明治廿四年十二月縣令第七十九號縣稅賦課規則取扱順序左ノ通り制定ス

但シ本令ニ抵觸スル從前ノ令達ハ明治二十五年三月三十一日限り廢止ス

第一條 縣稅地租割ハ納期初日ノ地租豫算額ニ依リ郡市長ニ於テ市村納額ヲ市村長ニ於テ各納人ノ納額ヲ査定スヘシ

前項地租豫算額納期初日ノ現在額ニ對シ異動ヲ生シタルトキハ納期初日ノ現在額ニ依リ納額ヲ更正スヘシ

第二條 縣稅賦課規則第十八條第一第三第六乃至第八ニ依リ下付スル鑑札ハ第一號式ニ依リ調製シ番號業名及下付ノ月日住所氏名等ヲ詳記スヘシ

第三條 縣稅賦課規則第十八條第三ニ依リ下付スル證明書ニハ左ノ事項ヲ詳記スヘシ

- 一 營業ノ種類
- 二 使用物件ノ員數

三 賣上金、收入金、質取金等ノ員數

四 賦課標準トスル雇人、物件、金員等ノ數

第四條 縣稅賦課規則第十八條第四ニ依リ鑑札ノ証認ヲ爲ストキハ鑑札ノ裏面ニ其旨ヲ記載シ下付スヘシ

第五條 縣稅賦課規則第二十條ニ依リ下付スル証認書ハ第二號式ニ依リ調製シ雇主ノ住所氏名營業ノ種類及証認書効力ノ區分等ヲ記載スヘシ但他人ノ物件ヲ借受ケ使用スルモノニ就テハ証認書ノ下付ヲ要セス

郡市長ハ第三號式ニ依リ調製シタル証認書臺帳ヲ備ヘ証認書記載ノ事項及其下付ノ事實ヲ登記シ証認書ト割印スヘシ

第六條 郡市長ハ第四號式ニ依リ調製シタル鑑札臺帳ヲ備ヘ鑑札記載ノ事項及鑑札ノ下付、書換、再渡等ノ事實ヲ登記シ鑑札ト割印スヘシ

第七條 郡市長ハ縣稅營業稅雜種稅調查主務員ヲ置キ左ノ規定ニ依リ常時營業稅雜種稅ノ調査ニ從事セシメ通稅ノ弊ヲ防キ及課稅ノ平衡ヲ保持スヘシ

一 調査主務員ハ少シモ一週年間二回各營業人物件使用人ニ就キ調査スヘシ

二 調査主務員ノ調査スヘキ事項ハ雇人、賣上金、收入金、質取金、資本金物件ノ多寡鑑札若シハ郡市長証認書ノ有無及其正否營業帳簿登記金額ノ當否等トス

三 調査主務員ハ第五號式ニ依リ營業人若シハ物件使用人ノ住所氏名營業ノ種類等ヲ詳記シタル調査手帳ヲ備ヘ調査ヲ爲スニ當リ營業帳簿登記ノ金額相當ト認ムルトキハ之ヲ移記シ之ニ營業人若シハ物件使用人ノ捺印ヲ求ムヘシ

四 調査主務員ハ前第三ノ調査ヲ了シタルトキハ營業帳簿調査濟ノ金額ニ捺印シ其傍ニ何月日調査ノ旨ヲ記載スヘシ

第十五類 租 稅

三

- 五 調査主務員ハ調査上必要ト認ムルトキハ村長若シハ市ノ區長ニ立會調査ヲ求ムルコトヲ得
- 六 調査主務員ハ營業帳簿登記ノ金額不相當ト認ムルトキハ凡テノ關係帳簿ヲ出サシメ其當否ヲ査定スヘシ
- 第八條 郡市長ハ調査主務員ヲシテ毎月第六號式ニ依リ前月ノ調査成績表二本ヲ調製セシメ翌月五日限り一本ヲ知事ニ提出スヘシ
- 第九條 縣稅營業稅雜種稅ハ縣稅賦課規則第十八條ノ申出第二十二條及第二十三條届出ノ員額ニ依リ郡市長ニ於テ各納人ノ賦課額ヲ定ムヘシ若シ申出數若クハ届出ノ員額調査主務員調査ノ成績ト異ナルトキハ直ニ之ヲ更正セシメ若シハ新ニ申出ヲ爲サシメ其賦課額ヲ定ムヘシ
- 第十條 郡市長ハ縣稅營業稅雜種稅ノ調査ニ就キ必要ト認ムルトキハ他ノ郡市長ニ調査ノ依頼ヲ爲スコトヲ得
- 第十一條 郡市長ハ徵稅上必要ト認ムルトキハ縣稅賦課規則第六條ニ該當ナル營業人及物件使用人ヲシテ其納稅代理人ヲ置キ代テ納稅ノ義務ヲ盡サシムル等便宜處理スヘシ
- 第十二條 郡市長ハ縣稅賦課規則第二十七條ニ依リ無効ニ歸シタル鑑札アルトキハ直ニ其鑑札記載ノ事項ヲ列舉シ知事ニ報告スヘシ
- 第十三條 市村長ハ毎年縣稅戶數割ノ賦課ヲ受クヘキ七月一日現在ノ戶數ヲ調査シ其年七月三十一日限り市長ハ直ニ村長ハ郡長ヲ經テ知事ニ報告スヘシ
- 第十四條 前項ノ戶數前年度同一ノ調査ニ係ル戶數ト異ナルトキハ報告書中ニ其増減ノ事由ヲ詳記スヘシ
- 第十五條 市村ニ於テ縣稅賦課規則第三十三條ノ手續ヲ了シタルトキハ結了後十日ヲ限り市村長ハ第七號式ニ依リ縣稅戶數割賦課額一覽表ヲ調製シ市長ハ直ニ村長ハ郡長ヲ經テ知事ニ報告スヘシ
- 第十六條 市村ニ於テ縣稅賦課規則第三十四條ノ手續ヲ了シタルトキハ市長ハ知事ニ村長ハ郡長ニ速ニ其賦課額人名及事由ヲ報告スヘシ

- 郡長ニ於テ前項ノ報告ヲ領シタルトキハ直ニ其事項ヲ知事ニ報告スヘシ
- 第十六條 郡市長ハ縣稅ノ賦課ヲ受クヘキモノニシテ其徵稅令書發付以前他ノ郡市ニ住居ヲ移シタルモノアルトキハ其所在郡市長ニ其徵稅ヲ囑托スルコトヲ得
- 前項納稅人ニシテ他ノ府縣ニ住居ヲ移シタルモノアルトキハ其現在地取調査及徵稅令書ヲ添ヘ其處分方ヲ知事ニ稟申スヘシ
- 第十七條 郡市長ハ警察署若クハ間稅分署ノ許可檢認ヲ受クヘキ縣稅營業稅雜種稅所屬ノ營業人ニシテ未シ其許可檢認ヲ受ケサルモノニ鑑札ヲ下付シタルトキハ直ニ其郡市警察署若クハ間稅分署ニ之ヲ通知スヘシ
- 警察署長及間稅分署長ハ警察署若クハ間稅分署ノ許可檢認ヲ受クヘキ縣稅營業稅雜種稅所屬ノ營業人若クハ物件使用人ニシテ未シ其所在郡市長ノ鑑札ヲ受ケサルモノニ許可檢認ヲ與ヘタルトキハ直ニ其所屬郡市長ニ之ヲ通知スヘシ
- 第十八條 市村長ハ縣稅徵稅元帳徵稅臺帳及收入日計簿ヲ備ヘ常ニ各納人ノ賦課額若クハ納稅要件及收入額送納額等ヲ明ニスヘシ
- 前項帳簿式及其整理順序ニシテ村ニ屬スルモノハ郡長市ニ屬スルモノハ市長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ請フヘシ其改正ニ就テモ亦同シ
- 第十九條 縣稅徵稅法第一條ニ依リ交付スル金員ハ毎年四月ヨリ九月迄ノ分ハ十月十日限り十月ヨリ翌年三月迄ノ分ハ四月十日限り市長ハ直ニ村長ハ郡長ヲ經テ請求書ヲ差出スヘシ
- 第二十條 從前下付シタル鑑札ハ明治廿四年縣令第七十九號縣稅賦課規則施行ノ爲メ新ニ下付ノ手續ヲ爲スニ及ハス
- 第二十一條 郡市長ニ於テ縣稅營業稅雜種稅調査主務員ヲ任免シタルトキハ直ニ其氏名ヲ知事ニ報告スヘシ

第十五類 租 稅

第一號式 鑑札

表面

(印ハ朱書)

第何號
割印 何々鑑札
何郡市何町村何番戸 何 某

裏面

明治何年何月何日
山梨縣何郡市役所 印

- 一 漁業及豚馬鑑札ヲ除クノ外堅質ノ紙製ニシテ曲尺縱四寸横貳寸五分トス
- 一 漁業及豚馬鑑札ハ木製ニシテ曲尺縱貳寸五分横一寸八分厚二分トス
- 一 營業及物件名ハ課目ノ區分ニ依リ尙漁業鑑札ニ就テハ漁具並其口徑アルモノハ其寸尺ヲ記載ス
- 一 各別ニ課稅セサル營業若シハ物件ハ其主タル營業若シハ物件ノ鑑札面ニ之ヲ併記ス

第二號式 証認書

表面

第何號
割印 何々商証認書
何郡市何町村何番戸 何某家族又ハ雇人 何 某
一年度間通用又ハ一時限リ

裏面

明治何年何月何日
山梨縣何郡市役所 印

調製例

一 堅質ノ紙製ニシテ曲尺縱四寸横貳寸五分トス

第十五類 租 稅

第三號式 証認書臺帳

第何號

割 一何々商

明治何年何月何日下付
明治何年何月何日返納
一年度間通用又ハ一時限リ

何郡市何町村何番戸
何某家族又ハ雇人

何 某

第四號式 鑑札臺帳

第何號

割 一何々商

明治何年何月何日新規又ハ書換下付

明治何年何月何日返納
明治何年何月何日移轉
明治何年何月何日亡失

何郡市何町村何番戸

何 某

第十五類 租 稅

第五號式 調査手帳

營業人若クハ物件使用人 氏 名

前年度調査金高總計	賦課標準											
	賦課標準 ノ 人員 ノ 數	金員物 ノ 數	ル ノ 人員	ノ 人員	ノ 人員	ノ 人員	ノ 人員	ノ 人員	ノ 人員	ノ 人員	ノ 人員	ノ 人員
月	一	二	三	四	五	六	計	月	七	八	九	十
調査金高								調査金高				
調査金高								調査金高				
計								計	十二	十一	十	九

調製例
一用紙美濃紙ニツ切トス
二賣上收入買取金高ニ課税セサル調査手帳ハ適宜調製スヘシ

第六號式 調査成績表 (甲)

明治何年何月縣稅營業稅雜稅調查成績表 (甲)

課目	發		見	
	軒數	人員	賦課標準トナル 人員物件等ノ數	賣上收入買取金高
合計				

右相違無之候也

明治年 月 日
縣稅營業稅雜稅調查主務員
何郡市官(職) 氏 名 印

郡市長宛

第十五類 租 稅

(五) 縣稅徵收細則中刪除

○縣令第二十九號 明治廿五年 三月廿三日

明治廿四年縣令第八十號縣稅徵收細則中刪除ノ件急施ヲ要スルヲ以テ縣參事會ノ議決ヲ經テ左ノ通り相定ム

明治廿四年縣令第八十號縣稅徵收細則第七條第一項中檢印ヲ請フヘシノ下滯納處分中納メタル税金ノ納付モ亦同ノ十八字ヲ刪除ス

(六) 縣稅徵收臺帳徵稅元帳式及整理順序

○縣令第三十四號 明治廿五年 三月廿八日

縣稅徵收臺帳徵稅元帳式及整理順序縣參事會ノ議決ヲ經テ左ノ通り相定メ明治廿五年四月一日ヨリ施行ス

第一條 縣稅徵稅元帳ハ第一號式乃至第四號式縣稅徵收臺帳ハ第五號式及第七號式ニ依ル

第二條 第一號式(甲)ハ左ノ種別ニ依リ一納期ニ就キ一帳ヲ調製シ其定期納稅スヘキモノ、税金ヲ

該欄内ニ登記シ其末尾ニ(乙)ノ合計表ヲ附シ毎日ノ合計額及旬計送納額等ヲ當該欄内ニ登記スヘ

- 一 地租割
- 二 營業稅中年稅ニ屬スル軒別稅

三 雜種稅中同上

四 營業稅中賣上金、質取金、收入金ニ賦課スル稅

五 雜種稅中同上

六 戶數割

第三條 第二號式(甲)ハ左ノ種別ニ依リ一納期ニ就キ一帳ヲ調製シ其定期外納稅スヘキモノ、税金ヲ登記シ其末尾ニ(乙)ノ合計表ヲ附スヘシ其他ハ前條ニ同シ

一 營業稅中年稅ニ屬スル軒別稅

二 雜種稅中同上

三 營業稅中賣上金、質取金、收入金ニ賦課スル稅

四 雜種稅中同上

五 戶數割

第四條 第三號式ハ一年度ヲ通シテ一帳ヲ調製シ營業稅雜種稅中月稅ニ係ル税金ヲ登記シ其末尾ニ(乙)ノ合計表ヲ付スヘシ其他ハ第二條ニ同シ

第五條 第四號式ハ一年度ヲ通シテ一帳ヲ調製シ營業稅雜種稅中日稅及屠畜稅市場稅(年稅ヲ除シ)等郡長ニ於テ直ニ收入スル税金ヲ當該欄内ニ登記スヘシ

第六條 第五號式ハ營業稅雜種稅ニ屬スル營業人若シハ物件使用人中賣上金、質取金、收入金ニ賦課第十五類 租 稅

十六
 スル税ヲ納ムルモノ第六號式ハ賣上金、質取金、收入金ニ賦課スル税ヲメ納サルモノ、納税要件ヲ當該欄内ニ登記スヘシ

第七條 郡長ハ第七號式ニ依リ縣稅收入日計簿ヲ調製シ各徵稅元帳ニ於テ毎日收入登記シタル金額ヲ之ニ移記シ且ツ毎日ノ小計額通計額及毎旬日ノ送納額等ヲ當該欄内ニ登記スヘシ

第八條 凡各號式ニ於テ割印証印照合印等ノ式ヲ示シタル金額ニハ其登記ト同時ニ式ノ如ク捺印スヘシ

第九條 村長ニ於テ納期ニ拘ラス收入スヘキ税金ニシテ郡長ノ徵稅令書發付ヲ待ツノ暇ナキ場合ニ於テハ村長ニ於テ假收入ヲ爲サシメ追テ本則ノ規定ニ依リ之ヲ整理スルコトヲ得

第壹號式徵稅元帳

(甲)

年月日	摘要	調定額	増減額		收入額	還付額	缺損	未	村
			増額	減額					
明治 年 月 日	明治 年 第 號 徵稅 令書ヲ發シ	割印			收入ノ証印	還付ノ証印			
明治 年 月 日	以下倣上								

第十五類 租 稅

十七

第十五類 租稅	金質入及賣 取並收上		稅別軒		開業月日 目種	金質入及賣 取並收上		稅別軒		開業月日 目種
	至自 十二月	至自 六月	下	上		至自 十二月	至自 六月	下	上	
	在現人雇		在現人雇							
				月	月			月	月	
				月日	月日			月日	月日	
				増	増			増	増	
	金税	金税	減	減				減	減	
			ノ件人賦廢 事増金スル課業 由減員ル標其 等物雇準他					ノ件人賦廢 事増金スル課業 由減員ル標其 等物雇準他		

卅一

第五號式 徵稅臺帳

收入 月日	種 目	稅 金	徵稅令 書番號	村 名	人 名
	物件屠畜與行稅木 戶錢等ノ類				

三十

第六號式 縣稅徵稅臺帳

種別	使用物件若 クハ賦課標 準トスル 人金買物件 等	開廢 月日	年 稅 額	上半年 期		下半年 期		營業人 住所氏名
				上半期	下半年期	上半期	下半年期	
氷車	春白何個 現在何個	五月十日 二個減						

卅二

第七號式 縣稅收入日計簿

月日	稅目	領收額	小計額		納証收額	送納額	通送納計額
			通計額	切符收額			
五月一日	地租割	金 額					
	營業稅一期	金 額					
全	雜種稅一期外	金 額					
	小計	金 額					
	地租割	金 額					
	營業稅	金 額					
	雜種稅	金 額					
	通計	金 額					
五月十日	營業稅一期外	金 額					
全	與行稅	金 額					

第十五類 租稅

卅三

壹軒ニ付年税金貳拾五錢
 會社資本金ヲ集メ銀行會社組合等ノ名義ヲ以テ貸
 附爲換預リ金手形割引等ノ營業ヲ爲スモノ
 資本金高千圓以下年税金壹圓五拾錢
 以上資本金百圓迄ヲ増ス毎ニ税金拾五錢ヲ加フ
 問屋

陸運及廻漕業
 壹軒ニ付年税金壹圓及純收入金高百分ノ一
 新聞紙及雜誌發行所 取次賣捌ヲ爲スモノ
 年稅發賣金高千分ノ二
 兩替店
 爲替店

壹軒ニ付年税金貳拾圓
 酒類受賣商

營業ニ關スル雇人四人以上アル者
 同 二人以上アル者
 同 一人アル者
 雇人ナキ者

右ノ外尙賣上金高千分ノ二半
 賣藥受賣商
 買藥一方ニ付年税金五錢
 氷商

壹軒ニ付年税金七圓
 同 金五圓
 同 金三圓
 同 金壹圓五拾錢

卸商

貯藏氷拾貫目ニ付税金拾錢

小賣
 甲府市中ハ壹軒ニ付壹期間 自四月 稅金貳圓其他ハ同壹圓
 行商 壹期間 自四月 稅金五拾錢
 壹期間 自九月 稅金五拾錢
 半乳搾取業

營業ニ關スル雇人五人以上アル者
 同 三人以上アル者
 同 二人アル者
 同 一人アル者
 雇人ナキ者
 右ノ外尙賣上金高千分ノ二
 庭樹及盆栽類商
 壹軒ニ付年税金貳圓
 諸受負業 家屋並道路橋梁堤防ノ建築修繕及飛脚
 屋賄方等 其他總テ受負ヲ業トスルモノ
 壹軒ニ付年税金壹圓五拾錢及受負金高千分ノ二
 雜商 貨席貸本及夜具衣裳其他物品ヲ貸シ
 雜料若シハ使用料ヲ收入スルモノ
 壹軒ニ付年税金壹圓及收入金高千分ノ二半

壹軒ニ付年税金七圓
 同 金五圓
 同 金三圓
 同 金貳圓
 同 金壹圓

一工

酢造業
 第十五類 租 稅

同 一人アル者 同 金貳圓
 同 金壹圓

- 一 雇人ナキモノ 右ノ外尙收入金高百分ノ一
- 一 理髮人 壹人ニ付月税金貳拾五錢
- 一 雇人請宿 壹軒ニ付月税金五拾錢
- 一 遊藝師匠 遊藝稼人
- 一 遊藝稼人 壹人ニ付月税金五拾錢
- 一 相撲行司モ之 壹人ニ付月税金五拾錢
- 一 俳優 壹人ニ付月税金壹圓五拾錢
- 一 幫問 壹人ニ付月税金四圓
- 一 藝妓 壹人ニ付月税金四圓
- 一 市場 每月開場スル者ハ一ヶ所ニ付年税金拾圓其他定期又ハ臨時ニ開場スルモノハ壹回ニ付五日以内税金壹圓六日以上十日以内税金二圓十一日以上三十日以内税金三圓三十日以外ハ一日ニ付金拾錢ヲ増ス但桑市一ヶ所ニ付年税金壹圓

- 一 演劇 興行中日税木戸錢大札五人分及上等場代五間分但場代ヲ收入セサル者ハ木戸錢大札拾人分若
- 一 諸興行 上等一間ノ容積六人ニ滿クサルモノハ上等場代平均一人當リ六人分ヲ以テ一間ニ計算ス
- 一 遊覽所 開場中日税見料最高額拾人分
- 一 遊技場 月税金壹圓
- 一 入寄席 興行中日税木戸錢大札拾人分
- 一 船 年税金國稅ノ額
- 一 車 二匹立馬車 一匹立馬車 荷積馬車 荷積車 大七、大八 中小車ノ類 牛車 年税金國稅ノ額 二人乘人力車 一人乘人力車 第十五類 租 稅

一 水	年税金國稅ノ半額	
一 乘	體壹個ニ付年税金五拾錢春白壹個ニ付年税金拾五錢	
一 屠	渡世用壹匹ニ付年税金壹圓自用壹匹ニ付年税金貳圓	
一 漁	牛壹頭ニ付税金壹圓馬壹頭ニ付税金五拾錢其他ハ壹頭ニ付税金貳拾錢	
一 業	業人民ノ私有ニ非サル場所ニ於テスルモノ	
一 置	水口三間以上	壹ヶ所ニ付年税金五圓
	同 二間以上	同 金三圓
	同 一間以上	同 金壹圓
	同 一間未滿	同 金五拾錢
一 引	水口徑六尺以上	壹個ニ付年税金三圓
	同 五尺以上	同 金貳圓
	同 四尺以上	同 金壹圓
	同 三尺以上	同 金五拾錢
	同 壹尺以上	同 金廿五錢
	同 壹尺未滿	同 金五錢

投 網

年税金貳圓

壹羽ニ付年税金貳圓

四ツ手網

又手網

年税金七拾五錢

釣及種々ノ器械ヲ以漁獵スル者

年税金貳拾五錢

一 稼

馬 壹頭ニ付年税金五拾錢

(九) 廿五年度縣稅戶數割市村等級及賦課率

縣令第十六號 明治廿五年 三月廿五日

明治廿五年度縣稅戶數割市村等級及賦課率左之通相定ム

但郡收入ニ係ル賦課率ハ府縣制第八拾五條ニ依リ内務大臣ノ指揮其他ハ總テ縣會ノ議決ニ依ル

戶數割市村等級及賦課率

壹 等 一 市 宅地平均壹反ノ地價六拾圓以上

甲 府 市 五千八百卅五戸 市郡收入壹戸ニ付金三拾錢三三二七九

貳 等 五ヶ村 宅地平均壹反ノ地價五拾圓以上

市郡收入壹戸ニ付金六拾錢四厘八七九四二

第十五類 租 稅 市郡收入壹戸ニ付金貳拾七錢二九九五一 四十七

增穂村	千六百拾戸	睦合村	六百九拾五戸
西島村	三百廿五戸	八日市場村	百二拾七戸
常永村	百六拾六戸	小井川村	二百三拾一戸
大鎌田村	二百拾七戸	國母村	二百五拾七戸
西條村	三百六拾九戸	福岡村	百八戸
池田村	百四拾八戸	御影村	三百拾八戸
田之岡村	百八拾戸	今諏訪村	百七拾九戸
源野村	四百五拾三戸	飯野村	二百七拾九戸
西野村	二百拾戸	在家塚村	二百四拾戸
百田村	三百八拾一戸	明穂村	六百二戸
豐田村	五百五拾八戸	南湖村	四百七拾三戸
落合村	四百四拾六戸	野々瀬村	三百拾戸
鹽崎村	三百六拾八戸	上手村	三百六戸
小笠原村	百五拾七戸	祖母石村	八拾五戸
武里村	百七拾四戸	清哲村	二百八戸
神山村	百八拾四戸	旭井村	二百九拾七戸
若神子村	三百七拾六戸	駒井村	百九拾六戸
下條村	百七拾五戸	中田村	二百拾一戸
菅原村	四百拾四戸	圓野村	二百四拾一戸
大草村	二百二拾一戸	龍岡村	二百二拾八戸
穂足村	二百二拾二戸	寶岡村	三百七拾五戸

五十

禾生村	五百拾戸	富濱村	四百六拾六戸
賑岡村	三百二拾八戸	初狩村	二百八拾三戸
廣里村	五百二拾五戸	大原村	五百四拾五戸
二川村	百三拾四戸	三町村	二百戸
朝井村	九拾三戸	郡收入壹戸=地價貳拾圓以上	九五七・一〇
鶴瀬村	五拾四戸	市郡收入壹戸=付金四拾九錢七厘〇四八三三四三	四二二拾一戸
西保村	四百二拾九戸	初鹿野村	百九拾九戸
三富村	二百七拾七戸	中牧村	四百四拾六戸
玉宮村	二百三拾七戸	神金村	四百五拾戸
寺尾村	九拾二戸	千代田村	百七拾六戸
右左口村	四百拾六戸	下曾根村	百五拾五戸
白井河原村	九拾八戸	豐富村	五百六拾三戸
鶯宿村	八拾六戸	高成村	二百四戸
豐和村	三百九拾九戸	榮田村	三百四拾壹戸
宮原村	八拾六戸	岩間村	四百拾八戸
久那土村	三百九拾五戸	大河内村	百六拾七戸
豐岡村	三百二拾一戸	大須成村	五百四戸
曙岡村	二百九拾九戸	切石村	三百拾戸
福居村	四百三拾六戸	富河村	二百八拾六戸
第十五類		富河村	六百二百四戸
租			五十一

大目村	福地村	瑞穂村	開地村	穂坂村	清春村	大泉村	駒城村	鳳來村	日野村	熱見村	安都村	朝美村	登美村	蘆安村	清川村	柳澤村	睦沼村	伊澤村	萬澤村	身延村	
二百五十九戸	五百五十九戸	七百四十四戸	四百六十二戸	二百一戸	四百九十九戸	二百一戸	二百四十六戸	三百二十六戸	三百六十七戸	二百九十九戸	三百九十八戸	三百九十八戸	二百九十九戸	百六十九戸	四百四十九戸	百九十八戸	六百七十七戸	三百三十五戸	四百四十二戸	四百四十二戸	
甲東村	桂見村	明里村	盛吉村	三淵村	小淵村	篠尾村	多麻村	新富村	秋田村	甲津村	津金村	安都村	穴山村	更科村	宮本村	平林村	吉澤村	花輪村	飯富村	五開村	
二百六十四戸	千三百三戸	五百八戸	二百五十九戸	八百八十二戸	三百八十二戸	二百一十八戸	二百一十八戸	二百一十八戸	二百一十八戸	二百一十八戸	二百一十八戸	二百一十八戸	二百一十八戸	二百一十八戸	二百一十八戸	二百一十八戸	二百一十八戸	二百一十八戸	二百一十八戸	二百一十八戸	二百一十八戸

大鶴村	巖保村	七保村	能泉村	中蘆川村	八之尻村	落居村	楠浦村	鴨狩津向村	共和村	五箇村	都川村	三里村	小泉村	江草村	秋山村	河口村	西原村
二百三十八戸	三百二十九戸	六百二戸	七拾七戸	七拾三戸	百一戸	二百八拾九戸	百戸	七拾三戸	三百五拾五戸	百八拾九戸	百八拾三戸	二百二拾一戸	百八拾一戸	三百八拾五戸	三百九拾九戸	二百三拾四戸	二百七戸
梁川村	笹子村	欄原村	下九一色村	山保村	葛籠澤村	羽鹿島村	古關村	富里村	硯島村	本建村	清里村	増富村	道志村	鳴澤村	小菅村	丹波山村	
二百五拾七戸	二百二拾五戸	四百五拾五戸	二百三拾二戸	二百六拾四戸	六拾三戸	四拾二戸	三百五戸	五百八拾八戸	百二拾九戸	百四戸	百拾一戸	三百三拾三戸	三百三拾三戸	二百三拾六戸	二百戸	二百三拾三戸	

但南都留郡河口村ハ宅地ノ價格ニ依ラズ特ニ六等ニ置ク
 市郡收入壹戸ニ付金三拾九錢六厘八六一三三九
 市郡收入壹戸ニ付金七拾七錢七厘三四三五〇九
 八拾二戸

租

市町村税滞納處分ニ付國稅滞納處分法第十一條ニ依リ屬托ヲ受ケタル市役所村役場ヨリ屬托シタル市役所町村役場ニ税金送付ニ係ル爲替手數料書留郵便稅ハ該徵收金ノ内ヨリ扣除シ又屬托シタル市役所村役場ニ在テハ各其所屬ノ經費ヨリ扣除ニ係ル爲替料等ヲ支出シ徵收額ニ充ツシ以テ税金ニ収納スルモノトス

五十八

第十六類 本縣報告例

○達甲第三號 一月二十日
 (一) 年報中地所ノ賣買及臺帳金高外ニ表削除
 明治廿三年

郡 市 村
 役 役 役
 所 所 所

明治廿二年^{十二}月^{十二} 達甲第貳拾貳號報告例中左記ノ四表ハ削除ス

- 一 地所ノ賣買及臺帳金高
- 一 地所ノ書質入貸借及臺帳金高
- 一 建物ノ賣買金高及建坪
- 一 建物ノ書質入貸借及受戻金高

(二) 月報半年報中 正誤 明治廿三年
 三月三日

昨廿二年達甲第廿二號本縣報告例目月報第一項營業稅雜種稅調查報告表ハ半年報第一項ニ入ルヘキモノトス

(様式亦同之)「全項適用欄内明治廿一年達乙第五十八號トアルハ明治廿二年達乙第十五號ノ誤」全例目半年報第二項營業稅雜種稅賣上收入賣取金高報告表發送期七月十五日限トアルハ三十一日限ノ誤

(三) 年報中電信柱個數其他取調表改正
 ○達甲第十八號 明治廿三年
 四月廿八日

郡 市 村
 役 役 役
 所 所 所

第十六類 本縣報告令

明治廿二年十二月達甲第廿二號本縣報告例年報中丙印様式電信柱個數其他取調表別紙之通り改正明
 治廿三年度ヨリ施行シ且其發送期日ヲ毎年四月(明治廿五年三月達乙第四)十七號ヲ以三十日ヲ改正)五日トス

電信柱個數取調表

電信柱個數取調表		明治何年十二月三十一日現在		郡(市)名	
種別	官有地	民有地	合計	合計	支柱
本柱					
支柱					
合計					
電信柱敷地手當取調表					
明治何年調		郡(市)名			
村名	本柱個數	支柱個數	敷地手當	敷地手當	地主姓名
			一本當り	本當り	
合計					

一 本表ハ一本當り金額ノ多キモノヨリ順次掲載スヘシ
 一 本柱ト支柱ト手當金額ヲ異ニスレモノハ地主同一ナリト雖モ其金高ニ應ジ引分ケ各別ニ掲載スヘシ

(四)
 ○達乙第八十三號 明治廿二年 九月廿六日

馬匹車輛並馬車馬具屬數別紙表式ニ據リ調製シ毎年二月十五日迄ニ報告スヘシ
 但明治廿一年一月達乙第四號ヲ廢ス徵發事務取扱手續第十四條ニ依リ條例附錄第三號ノ各表ヲ差
 出ストキハ本文ノ報告ヲ爲スニ及ハス

郡 役 所
 市 役 所

考 備	馬匹車輛並馬車馬具屬數表												明治何年十二月三十一日現在		某郡役所				
	乘馬		駕馬		馬		馬		馬		馬		馬車		馬車		馬車		
	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	合格	不合格	
本表ハ徵發事務條例附錄第三號ノ二ニ記載ノ調査事項第四項乃至第十三項ニ依リ調製スヘシ	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	
	頭一	頭二	頭一	頭二	頭一	頭二	頭一	頭二	頭一	頭二	頭一	頭二	頭一	頭二	頭一	頭二	頭一	頭二	
	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	
	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	
	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	
	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬
	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬
	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬
	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬
	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬
	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬

(參看) 徵發事務取扱手續 廿三年九月達甲 第二十號(改正) 抄録
 第十四條 市及村長ハ三ヶ年毎ニ條例附錄第三號一三ノ雛形ニ依リ其所屬内ノ徵發物件ノ表ヲ製
 (市長ハ第三號)ノ一ハ二部) 翌年二月廿八日限リ縣廳ヘ村長ハ全月十五日限リ郡長ニ差出スヘシ郡長ハ之カ
 第十六類 本縣報告令

合計表(第二號)ヲ製シ全月廿八日限リ縣廳ニ差出スヘシ
 (九) 年報中市村土木工費總計表報告期日改正
 明治廿五年 一月十一日
 ○達甲第一號

四

明治廿二年^{十二}月^{十二} 達甲第二十二號本縣報告例々目中市村土木工費總計表報告期日ヲ村役場ヨリハ毎年六月三十日郡市役所ヨリハ七月十五日トス
 (十) 年報中徵集人員ノ身丈外ニ表改正
 ○達乙第八十三號 明治廿五年 五月十三日

明治廿四年^{十二}月^{十二} 達甲第二十七號本縣報告例々目并様式中集人員ノ身丈以下ニ表別紙ノ通改正ス

例	目	郡	市	村
○年報	適	郡	市	村
甲 一徵集人員ノ身丈	用	役	役	役
甲 一徵集免除者及兵役免除者ノ身丈	發	場	場	場
全	送	所	所	所
	期			
	日			
	每翌年			
	二月十日			
	日			

甲 一徵集人員及徵集免除者ノ職業	全	全
------------------	---	---

(改正)

甲 徵集人員ノ身丈	明治何年中調
郡市名	五尺四寸以上
	五尺二寸以上
	五尺一寸以上
	五尺以上
	五尺以下
合計	合

(改正)

甲 徵集免除者及兵役免除者ノ身丈	明治何年中調
郡市名	五尺四寸以上
	五尺二寸以上
	五尺一寸以上
	五尺以上
	五尺以下
合計	合

第十六類 本縣報告令 五

職別	徵集人員	徵集免除者及兵役免除者
職業	徵集人員	徵集免除者及兵役免除者
職別	徵集人員	徵集免除者及兵役免除者
職業	徵集人員	徵集免除者及兵役免除者

五

第十七類 願伺届

●第十七類 願伺届

(記載スルキ事項ナシ)

●第十八類 雜

(一) 御料局静岡支廳出張所移轉改稱

○告示第一號 明治廿五年 一月六日

御料局静岡支廳猿橋出張所ヲ南都留郡谷村ニ移シ谷村出張所ト改稱シタル旨該廳ヨリ通知アリタリ

(二) 御料地産物公賣規則廢止

○告示第三十五號 明治廿五年 四月四日

御料地産物公賣規則(明治廿二年九月本)廢止候旨御料局静岡支廳ヨリ通牒アリタリ

(三) 警視廳巡查志願ノ者身元証明方

○達甲第廿五號 明治廿四年 十一月十六日

市 役 所
村 役 場

縣下在籍ノ者ニテ警視廳巡查志願シ身元証明ヲ請フモノアルトキハ左ノ書式ニ依リ証明ヲ與フ

身元証明書

氏 名

原 籍	何府縣何郡市何區町村何番地又ハ何某方同居
身 分	華士族又ハ平民或ハ何某何男兄弟
生年月日	年月日生

第十八類 雜

一

家資分産 又ハ身代限	無但シ家資分産ノ宣告ヲ受ケタル者ハ復權ヲ得タルヤ否又従前身代限 リノ處分ヲ受ケタルモノハ義務ノ辨償ヲ終リタルヤ否ヲ記スヘシ
兵役	國民軍或ハ現役歸休、豫備後備等但シ徵集猶豫延期免除等ニ係 ルモノハ其理由ヲ記スヘシ

右証明候也

年 月 日

何府縣何郡市何區町村長 氏 名 印

○達甲第二十六號 明治廿四年
十二月十四日

縣下在籍ノ者ニシテ警視廳看守志願シ身元証明ヲ請フ者アルトキハ本年十一月達甲第廿五號ノ書
式ニ依リ巡查ト同様ノ証明ヲ與フヘシ

○達甲第四號 明治廿五年
三月十四日

沖繩縣巡查奉職ノ者父母看病歸省若シハ自己疾病轉地療養等ノ途次正當事故ニ依リ期日歸任シ能ハ
サル場合ハ其地市役所町村役場ノ証明ヲ要スヘキニ付爾後出願者アラハ証明書ヲ付與スヘシ

○訓令第十八號 明治廿五年
五月二十日

郡 役 所

市 役 所

村 役 場

市 役 所

村 役 場

郵便ニ依リ送達スル訴訟書類ニシテ民事訴訟法第百四十五條第二項ニ依リ市町村長ニ於テ領置シタル
トキ其送達ヲ受クヘキモノ在ラサルトキハ該書類ハ其儘市役所町村役場ニ留置シヘシ

(參看) 民事訴訟法 明治廿三年三月
法律第廿九號抄錄

第百四十五條 送達ヲ受クヘキ人ニ住居ニ於テ出會ハサルトキハ其住居ニ於テスル送達ハ成長シシ
ル同居ノ親族又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

此規程ニ從ヒ送達ヲ施行スルコトヲ得サルトキハ其送達ハ交付スヘキ書類ヲ其地ノ市町村長ニ預
置キ送達ノ告知書ヲ作り之ヲ住居ノ戸ニ貼付シ且近隣ニ住居スル者二人ニ其旨ヲ口頭ヲ以テ通知
シテ之ヲ爲スコトヲ得

(七) 北米合衆國渡航者注意方

○告示第五十八號 明治廿五年
六月廿五日

北米合衆國ニ於テハ千八百八十五年二月廿六日外國人契約労働者移住禁止條例ナル者ヲ發布シ右ニ
違反ノ徒ハ何國人ニ拘ラス上陸拒絶ノ制規ニシテ尙昨年三月十三日ニ至リ該條例ニ追加條例ヲ制定
シ契約労働者ノ移住禁止ヲ一層嚴重ニ實施セシ事ハ既ニ昨年六月十六日及廿九日官報外報欄内ニ掲
載アリ此ニ其要項ヲ舉レハ白癩、瘋癩及貧困者若シハ公共ノ扶助ヲ受クルノ虞アル者、嫌惡スヘキ疾
病又ハ危險ナル傳染病者、重罪又ハ破廉犯罪ノ宣告ヲ受ケタル者ヲ始メ直接又ハ間接ニ契約ヲ結ビ
一定ノ給料又ハ就役ノ場所ヲ定メ又ハ其豫約ヲ爲シ或ハ書面口頭ノ勸誘ニ依リ渡米シタル者ハ契約
移住者ニ該當スヘキモノト認定シテ上陸ヲ禁セラル、コ等ナリ然ルニ爾來和歌山、廣島、熊本、山口
其他各縣下ヨリ渡米スルモノ陸續相踵キ遂ニ本年四月十三日横濱發ノ瀛船ニ乗込タル渡米者中桑港
到着ノ上檢査ニ由リ條例違反ノ康ヲ以テ上陸ヲ拒絶セラレ空シク歸國シタル者二十六名且ツ近頃本
第十八類 雜

邦人渡航者ノ數ハ一ヶ月間ニ五百餘名ノ多キニ達シ爲メニ該邦ニ於テハ猶ホ一層嚴重ナル檢査ヲ施行シテ違犯者ヲ送還セントスルノ狀況ナル由畢竟スルニ渡米者自身ガ該條例ノ何物タルヲ知ラサルニ基因スルモノニテ其弊ヤ上陸ヲ拒絕セラル、ノ不幸ニ陥リ莫大ノ旅費ヲ失ヒ進退ニ窮スル而已ナラス終ニハ之レガ爲メ帝國ノ名譽ヲモ毀傷スルニ至ルノ虞ナリトセス故ニ爾後渡米セントスル者ハ該國移住條例ヲ熟視シ漠然渡航ヲ企テ一身ノ不幸ハ勿論我國體ニ關係ヲ及スカキコトナキ様注意スヘシ爰ニ米國制定ノ外國人移住條例及追加條例ヲ左ニ示ス

明治二十五年六月廿二日

山梨縣知事 中島錫胤

合衆國豫約労働者移住禁止條例 千八百八十五年 二月廿六日制定 (昨年六月二十九日官報外報欄内ニ掲載)

第一條 本條例制定以後ハ一個人、商社、商業組合若シハ會社ハ合衆國同州外地又哥倫比亞「デストリクト」ニ於テ労働者若シハ業務ニ就クノ契約(口述、證書、明諾、默諾等)ニ依リ合衆國、全州外地及哥倫比亞「デストリクト」ニ渡來スル外國人ニ對シ豫メ其渡航費ヲ支拂ヒ又ハ其他如何ナル方法ヲ以テスルヲ問ハス之カ移住ヲ獎勵補助スルコトヲ得サルモノトス

第二條 合衆國全州外地及哥倫比亞「デストリクト」ニ於テ労働者若シハ業務ニ就クコトニ關シ一個人、商社、商業組合若シハ會社カ外國人ト其渡來以前ニ締結シタル契約ハ其種類ノ如何ヲ問ハス總テ無効タルヘシ

第三條 一個人、商社、商業組合若シハ會社ニシテ外國人ノ合衆國ニ住居シ若シハ歸化スルニ先テ其外國人ト労働者若シハ業務ニ就カシムルノ契約(契約ノ種類如)ヲ結ビ合衆國、全州外地及哥倫比亞「デストリクト」ニ移住スルヲ勸誘、獎勵又ハ補助シテ本條例第一條ニ違犯シタル者ハ各罪ニ附キ千弗ノ罰金ヲ拂フヘシ而シテ右罰金ハ合衆國政府又ハ何人ニテモ最初ニ起訴スル者(契約ノ關係含蓄ス)ヨリ同額ノ貸金ヲ請求スルト同様ノ手續ヲ以テ合衆國巡回裁判所ニ出訴シ之ヲ徵收シ其徵收金ハ合衆國大藏省ニ納ムヘシ又右契約關係ノ外國人ニ對シテハ一名毎ニ別個ノ訴訟ヲ起スコ

トヲ得

管轄地方裁判所檢事ハ合衆國々費ヲ以テ前記ノ各訴訟事件ヲ擔當スヘキ義務アルモノトス

第四條 船長ニシテ其船舶ニ乘込ミタル外國人ハ労働者若シハ業務ニ就クノ契約ヲ結ビタル労働者若シハ職工タルコトヲ知リテ之ヲ外國ヨリ其船中ニ搭シ來リ合衆國ニ上陸セシメタル者ハ輕罪ヲ以テ論シ右労働者若シハ職工一人ニ附キ五百弗以下ノ罰金ニ處シ併セテ更ニ六箇月以内ノ禁錮ニ處スルコトアルヘシ

第五條 本條例ハ合衆國內ニ一時住居スル外國臣民ニシテ一個人若シハ官吏ノ資格ヲ以テ合衆國ノ住民若シハ人民ニアラサル者ヲ自家ノ書記婢僕トシテ雇入レ又ハ一個人、商社、商業組合若シハ會社ニ於テ未ダ合衆國ニ存在セサル新工業ニ從事セシメシメカメ他ニ熟練ノ職工ヲ得ルニ途ナキ場合ニ限リ外國ヨリ該工業ニ熟練シタル職工ヲ雇入ル、ヲ禁ス

本條例ハ演藝、技術、講義、唱歌等ヲ以テ職業トナス者又ハ單ニ從僕若シハ家僕トシテ雇ハレタル者又ハ各宗派ノ法教師又ハ公認ノ專門業ニ從事スル者又ハ學校教授(千八百九十一年三月制定ノ條例ヲ以テ増補ス)ニ對シテ之ヲ適用セス

本條例ハ何人ヲリトモ其家族「親戚若シハ朋友」(千八百九十一年三月制定ノ條例ヲ以テ削除ス)ノ合衆國ニ永住セントノ目的ヲ以テ外國ヨリ渡來スルヲ補助スルヲ禁止ス

第六條 本條例ニ抵触スル諸法律ノ全部若シハ一部ハ之ヲ廢止ス

北米合衆國改定外國人移住條例 千八百九十一年 三月三日制定 (昨年六月十六日官報外報欄内ニ掲載)

第一條 左ニ列舉スル各種ノ外國人ハ移住ニ關スル現行ノ諸條例(支那労働者ニ關スル諸條例ヲ除ク)ニ基キ合衆國ニ渡來スルヲ許サス
痴人、癡狂人、貧困者若シハ公共ノ扶助ヲ受クルニ至ルヘキ見込アル者、嫌疑スヘキ疾病若シハ危險ノ傳染病ニ罹リ居ル者、重罪若シハ其他ノ破廉恥罪ヲ犯シ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者數妻ヲ有スル者並ニ他人ノ費金若シハ扶助ニ依リテ渡來シ特別訊問ヲ受クルニ當リ前諸種類ノ孰レニ

第十八類 雜

五

モ屬セス一千八百八十五年二月二十六日發布ノ條例中移住ヲ禁セラレタル勞働者ノ種類ニモ屬セサルコトヲ證明シ能ハサル者

本條ニ於テハ大藏卿ノ制定ニ係ル規則ニ基キ移住ヲ禁セラレタル勞働者ノ孰ノ種類ニモ屬セスシテ合衆國ニ居住スル所ノ親族若シハ朋友ハ之ヲ召喚スルヲ禁セス移住者若シ國事犯罪人ナルトキハ本國ノ法律若シハ有罪ノ宣告ヲ爲シタル裁判所ニ於テ其犯罪ニ對シ重罪、輕罪其他破廉恥ニ係ル常事犯ノ罪名ヲ付シタル場合ニ於テモ本條例ヲ適用セス

第二條 勞働ニ服セシムヘキ契約ヲ定テ外國人ヲ渡來又ハ移住セシムルヲ禁スルノ事ニ關シ千八百八十五年二月二十六日發布セシ條例ノ違犯ニ對スル訴訟ハ裁判所ノ承諾ヲ得ルニテラサレハ之ヲ和解シ若シハ停止スルコトヲ得ス但シ其承諾ノ事實ト理由トハ之ヲ裁判簿ニ記入スルヲ要ス

第三條 外國ニ於テ勞働ニ服セシムヘキ豫約ヲ以テ渡來ヲ促シ其廣告文ヲ出版シ外國人ノ移住若シハ渡來ヲ獎勵補助スル者ハ千八百八十五年二月二十六日發布ノ條例ヲ犯シタル者ト看做ス而シテ此ノ如キ廣告ノ爲メニ合衆國ニ渡來セシ外國人ハ該條例ニ準據シ契約ニ依リテ渡來セシ者トシテ之ヲ處分シ該條例ノ罰則ヲ適用スヘシ但シ各州ノ政廳若シハ移住事務局ニ於テ其州ニ移住スルヲ勸誘スル所ノ廣告ヲ爲スハ此限ニアラス

第四條 瀛船若シハ運輸會社及船舶持主ハ其親ラスルト代理人ヲ以テスルトト問ハス書面、出版物若シハ口述ヲ以テ外國人ノ合衆國ニ移住スルヲ勸誘若シハ獎勵スル事ヲ得ス若シ之ヲ犯ストキハ右瀛船若シハ運輸會社、船舶持主若シハ其代理人ハ千八百八十五年二月二十六日發布ノ條例第一條ノ犯罪ニ對シ該條例第三條ニ定メタル刑罰ニ處ス但シ通常商用上ノ書狀、回章、廣告文若シハ口述等ヲ以テ船舶ノ出帆、賃錢及船中ノ便宜等ヲ廣告スルハ此限ニアラス

第五條 千八百八十五年二月二十六日發布ノ條例第五條ヲ修正スルコト左ノ如シ
同條第二款ノ但書中「各宗派ノ法教師又ハ公認專門業ニ従事スル者又ハ學校教授」ノ數字ヲ加ヘ其

「或ハ親族又ハ朋友」ノ數字ヲ刪除ス

第六條 何人ヲ問ハス船舶ヲ以テ若シハ其他ノ方法ヲ用ヒテ合衆國ニ移住スルノ資格ナキ者ヲ渡來セシメ若シハ其渡來ヲ補助シタル者ハ犯罪者ト看做シ千弗以下ノ罰金若シハ一年以内ノ禁錮ニ處シ又ハ右兩罰ヲ併セ加フルコトアルヘシ

第七條 移住事務局長官一名ヲ置キ大統領ハ元老院ノ協贊ヲ經テ之ヲ選任スルノ權ヲ有ス但シ其年俸ヲ四千弗トシ毎月拂トス
移住事務局長官ハ大藏卿ノ配下ニアル大藏省中ノ官吏タルヘシ且ツ同長官ハ其職務ニ關スル年報及大藏卿ノ要求スル臨時報告ヲ大藏卿ニ差出スヘシ

大藏卿ハ移住事務局長官ノタメニ華盛頓府ニ於テ適當ナル事務所ヲ設ケ且ツ其職務ヲ行フニ必要ナル帳簿及ヒ其他ノ器具ヲ具備セシムヘシ
移住事務局長官ニハ書記長一名及一等書記二名ヲ附スヘシ

第八條 移住民ヲ搭載シテ合衆國ニ到看セシ瀛船若シハ帆船ノ船長及代理人ハ其搭載シ來リタル移住民ヲ上陸シシムル前必ス移住民ノ姓名、國籍、最後ノ居住地及其移住地ヲ當該検査官ニ報告スヘシ然ルトキハ検査官ハ自身若シハ助手ヲ船中ニ派出シテ移住民ヲ一々検査スヘシ又検査官ハ移住民ヲ一時ニ指定ノ時間及場所ニ移シテ検査ノ至ク終ルマテ留置シコトヲ得但シ此ノ如ク移轉セシムルモ其検査ノ終ラサル内ハ之ヲ上陸ト看做サス

移住民ノ身体検査ハ海軍病院ノ醫員ニ於テセシム若シ相當ノ時間内ニ海軍病院ヨリ醫員ノ出張シ難キ場合ニハ検査官ハ通常ノ醫師ヲ雇ヒテ移住民ノ検査ヲ爲サシムルヲ得但シ該醫師ニ對スル謝金額ハ大藏卿之ヲ定ム検査官及其助手ハ宣誓ヲ爲サシメ又ハ移住民カ合衆國內ニ入ルヘキ資格ニ關スル証據物ヲ蒐集シ之ヲ考定スルノ權力ヲ有ス而シテ是等ノ事項ハ之ヲ記録シ置クヘシ
移住事務局長官ハ検査ノシメ一時上陸セシメタル移住民ニ宿舍食物ヲ給シ其他相當ノ取扱ヲ爲サシ

ムヘシ又該長官ハ檢査ヲ受ケタル移住民ニシテ直ニ移住地ニ進行スルヲ許サレサル者ニ對シテモ其見込ニ由リ相當ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得
移住民ノ合衆國ニ入ルヘキ資格ノ有無ニ關スル檢査官及其助手ノ判定ハ資格ナシト認メラレタル者ヨリ移住事務長官ニ訴願スルノ事ナキトキハ終結確定トス但シ該長官ノ處分ニ對シテハ大藏卿ニ訴願スルコトヲ得

汽船及帆船ノ船長及其代理人ハ檢査官カ指定シタル時限及場所ノ外猥ニ其船中ノ移住民ヲ上陸セシメサル様監視スヘシ若シ移住民ヲ檢査官カ指定シタル場所及時限外ニ上陸セシメタルトキハ船長若シハ其代理人ハ輕罪ヲ以テ論シ千弗以下ノ罰金若シハ一年以内ノ禁錮ニ處シ又ハ右兩罰ヲ併セ加フルコトアルヘシ

大藏卿ハ加拿陀、英領哥倫比亞及黑西其ノ境界ニ於テ尋常ノ旅客ニ對シ妨害若シハ障礙ヲ加フルコトナシシテ檢査ヲ行ハシメシカガメ別ニ規則ヲ設クルコトヲ得但シ各稅關ニ任命スヘキ檢査官ハ一名ニシテ其年俸ハ千二百弗以下トス

千八百八十二年八月三日發布ノ法律第二條ニ依リ各州理事官、官廳若シハ大藏卿ト特約アル吏員ニ付與セラレタル職務及權限ハ合衆國檢査官ニ於テモ亦必要ノ場合ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

第九條 公安ヲ維持シ又ハ合衆國移住事務署ノ設アル各州ニ於テ其州ノ法律ニ從ヒ罪人ヲ逮捕スルタメニ右事務署ノ官吏ハ法律執行ノ任ヲ帶フル該州若シハ其市邑ノ相當官吏ノ該署内ニ入來ルヲ拒ムコトヲ得ス

又此目的ヲ達センカガメニ右官吏及地方裁判所ノ管轄權ヲ該事務署ニ及ホスモノトス

第十條 法律ニ背キ合衆國ニ渡來セシ移住民ハ成ルヘシ其渡來セシ船舶ニテ直ニ送還スヘシ右移住民上陸中ノ費金並ニ旅費ハ總テ之ヲ搭載シテ渡來セシメタル船舶持主ノ負擔タルヘシ若シ之ヲ船中ニ引取ルコトヲ拒ミ若シハ之ヲ船中ニ留置シコトヲ怠リ又ハ之ヲ其出發港ニ搭載シ歸ルコトヲ

怠リ若シハ拒ミ又ハ上陸中ノ費金ヲ支拂フコトヲ怠リ若シハ拒ム者ハ輕罪ヲ以テ論シ孰モ三百弗以下ノ罰金ニ處ス而シテ罰金ヲ納付セサルトキハ合衆國內何ノ港ヨリモ出港スルコトヲ許サス

第十一條 法律ヲ犯シテ合衆國ニ渡來セシ移住民ハ法律ノ規定ニ從ヒ之ヲ合衆國ニ渡來セシメタル者又ハ船舶若シハ運輸會社等ノ費金ヲ以テ其到着ノ日ヨリ一年以内ニ限リ何時ニテモ之ヲ送還スルコトヲ得若シ右費金ヲ以テ送還スルコト能ハサルトキハ合衆國ノ費金ヲ以テ之ヲ送還スヘシ而シテ移住民カ合衆國ニ到着セシ後一年以内ニ於テ其到着前ヨリ存在スル原因ニ由リ公共ノ扶助ヲ受クルニ至リタル者ハ法律ヲ犯シテ渡來セシ者ト看做シ本條ノ規定ニ準據シ之ヲ送還スヘシ

第十二條 本條例ハ現行諸條例(即チ本條例ヲ以テ修正セシモノ)ニ據リ提起セシ民事刑事事ノ訴訟トハ毫モ關係ナ有セサルモノトス而シテ該訴訟ハ本條例ノ發布ナキモノト見做シテ依然繼續スヘシ
第十三條 合衆國巡回裁判所及地方裁判所ハ本條例ノ規定ニ據リ提起スル民事刑事事ノ訴訟ニ對シ均シク完全ノ裁判權ヲ有ス而シテ本條例ハ千八百九十一年四月一日ヨリ實施ス

